

平成 23 年 度

佐 賀 大 学

学 生 募 集 要 項

—推 薦 入 試—
—帰国子女特別入試—



入学者選抜に関する問い合わせ先

〒840-8502	佐賀市本庄町 1 番地	TEL 0952(28)8178
	佐賀大学学務部入試課	http://www.saga-u.ac.jp/
	佐賀大学ホームページ	http://www.sao.saga-u.ac.jp/
	入試関係ホームページ	nyushi@mail.admin.saga-u.ac.jp
	入試関係メールアドレス	

佐 賀 大 学

目 次

I	佐賀大学憲章	1
II	アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	2
III	推薦入試	
1	実施する学部、学科・課程、選修、募集人員及び対象となる高等学校の科	20
2	出願資格	21
3	推薦人員	23
4	出願方法及び出願期間	24
5	出願に必要な書類等	25
6	入試方法	26
7	試験日時、実技検査等及び試験場	32
8	事前相談を要するみなさんへ	33
9	合格者の発表	33
10	入学手続	33
11	不合格者の取扱い	35
12	注意事項	35
13	第2次選考受験者心得	35
14	推薦に際しての留意点	36
15	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	38
16	請求により本人に開示される個人情報	40
17	入学後の選修及びコース	41
18	過去3ヶ年の志願者等状況	42
	●推薦書（各学部）	（様式推5）
	●活動歴等報告書（文化教育学部の学校教育課程教科教育選修及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修志願者のみ）	（様式推7）
IV	帰国子女特別入試	
1	実施する学部、学科、募集人員	44
2	出願資格	44
3	出願方法及び出願期間	45
4	出願に必要な書類等	46
5	入試方法	47
6	試験日時、学力検査等及び試験場	48
7	事前相談を要するみなさんへ	48
8	合格者の発表	49
9	入学手続	49
10	不合格者の取扱い	50
11	注意事項	50
12	第2次選考受験者心得	51
13	入学志願票等の記入上の注意及び記入例	52
14	請求により本人に開示される個人情報	55
V	共通事項「佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内」	56
VI	添付書類	
1	推薦入試（出願用書類在中封筒内に同封分）	
	●検定料振込依頼書	（様式推1-1）
	●検定料振込証明台紙	（様式推1-2）
	●入学志願票（推薦入試）	（様式推2）
	●写真票（推薦入試）	（様式推3）
	●受験票（推薦入試）	（様式推4）
	●自己推薦書（医学部）	（様式推6）
	●推薦入試作文用紙	（様式推8）
	●推薦入試用住所届	（様式推9）
	●志願票等在中封筒	
	●受験票（推薦入試用）等在中封筒	
	●写真用シール	
2	帰国子女特別入試（出願用書類在中封筒内に同封分）	
	●検定料振込依頼書	（様式帰1-1）
	●検定料振込証明台紙	（様式帰1-2）
	●入学志願票（帰国子女特別入試）	（様式帰2）
	●写真票（帰国子女特別入試）	（様式帰3）
	●受験票（帰国子女特別入試）	（様式帰4）
	●帰国子女特別入試志願者身上記録書	（様式帰5）
	●帰国子女特別入試用住所届	（様式帰6）
	●志願票等在中封筒	
	●受験票（帰国子女特別入試用）等在中封筒	
	●写真用シール	

試 験 実 施 日 程 等

- 推 薦 入 試 -

- 帰国子女特別入試 -

項 目	推薦入試		帰国子女特別入試	
	文化教育学部 経済学部 理工学部 農学部	医 学 部	理工学部 農学部	医 学 部
願書受付期間	平成22年11月 1 日(月)～11月 5 日(金)			
第 1 次 選 考 結果通知期限	平成22年11月15日(月)			
第 2 次 選 考 日	平成22年11月26日(金)	平成22年11月27日(土)	平成22年11月26日(金)	平成22年11月27日(土)
合格者発表日	平成22年12月13日(月)			
入学手続期間	平成23年 1 月17日(月)～ 1 月20日(木)			

I 佐賀大学憲章

平成18年 3月15日 制定

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します。

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

Ⅱ アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

●文化教育学部

基本理念

本学部は、国際化・情報化・高齢化の進む今日の社会状況の中で、新しい社会と文化の創造という課題と、それを担う人材の育成、教育という問題を総合的に取り上げ、現代における人間、社会、自然の全体的理解に基づく「総合知」を目指しています。

○学校教育課程

教育の目的・目標・方針

【目的】

小学校教諭一種免許状の取得を卒業要件とする当課程においては、複雑で深刻な現在の教育問題の社会的・歴史的背景や原因、さらにその心理学的要因を理解し、それに対応できる教員の養成を目指します。

【目標】

1. 学校で起こる教育上の問題を的確に把握し、それに対応できる教員を養成します。
2. 児童・生徒にとって楽しい授業を実現できる授業実践能力をもった教員を養成します。
3. 理科や数学に対する児童・生徒の興味関心を高める能力をもった教員を養成します。
4. 音楽を通じて、児童・生徒に豊かな情操を育てる能力をもった教員を養成します。

【方針】

学校教育課程には7つの選修（教育学、教育心理学、障害児教育、教科教育、理科、数学、音楽）があり、学生はいずれかの選修に所属します。小学校各教科の教育内容や指導法、教育実習などの科目を一通り学習して小学校教員に必要とされる基礎的な知識や技能を身につけるとともに、所属する選修の専門を深めることにより高度な知識と能力を修得します。

求める学生像

小学校の全教科に関する学習と，教育学，教育心理学，障害児教育，教科教育，理科，数学，音楽のいずれかの専門分野に興味と意欲を持ち，幅広い基礎的学力や技能を備え，学校教育の諸問題や各教科の教育について熱意を持って学ぶことにより，小学校の教員，さらには中学校・高等学校などの教員を目指す学生を求めます。

なお，卒業には小学校教員一種免許状取得の要件を完全に満たさなければならないので承知しておくこと。

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

【入学要件】

募集区分毎に定めた出願要件等を満たし，高等学校長から責任をもって推薦され，合格した場合は確実に入学できる者。

【選抜方式】

教科教育選修	書類（調査書及び推薦書）による第1次選考を経て，実技検査，口頭試問を含む面接及び小論文による第2次選考を実施します。
--------	--

【選抜基準】

学業成績や修学状況，意欲，当該分野の活動歴・能力・知識等を総合的に評価します。

高等学校で習得すべき内容・水準

・推薦入試（書類審査／小論文・面接・実技）

高い学業成績を有していること。さらに，幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち，自分の考えを日本語で他者からも分かり易く文章表現ができ，また，書道，音楽，美術，スポーツ，情報技術のいずれかについての基礎的知識を有して，相手の意見を理解し自分の考えを相手に正しく伝えることができ，さらに，書道，音楽，美術，スポーツ，情報技術のいずれかについて基礎的な技能を有していること。

○国際文化課程

教育の目的・目標・方針

【目的】

- 1．国際的な広い視野に立って諸々の文化の価値を理解することのできる深い学識と豊かな人間性を養い，地域や国際社会の様々な分野で活躍できる人材を育てます。
- 2．多様で異質な文化を深く理解させることで，自己を見つめ，人間とは何かを考え，生きる力，つまり「人間力」を養成します。

【目標】

- 1．国際社会に深い理解を有する能力を養成するための科目を設定し，国際人としての資質を

形成します。

- 2．英語とともに、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語を履修させ、高い外国語運用能力を養成します。
- 3．指導的立場に必要なコミュニケーション能力、深い洞察と分析に基づいた企画力・実践力を養成します。
- 4．ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）に深い理解を有する人材を育成します。

【方針】

- 1．他者とコミュニケーションする力、すなわち言語運用能力を重視し、教養教育と専門教育の外国語を合わせて、2カ国語以上を徹底的に指導します。
- 2．2年次からは、「日本・アジア文化選修」と「欧米文化選修」にコース分けし、それぞれの地域の歴史、哲学、法学、政治・経済などを広い視野から理解できるように指導します。
- 3．3・4年次には、少人数ゼミによるきめ細かな卒論指導を通して実力をつけます。

求める学生像

- 1．広く国際的な視野からものごとを考え、学び、それを将来自分や社会のために活かそうという意欲や希望を持つ学生を求めます。
- 2．広くアジアや欧米の言語、文学、文化、歴史、哲学、法学、政治、経済などを学びたい、海外の大学に留学したい、公務員、旅客業、情報通信業、金融保険業など国際的な視野を必要とする業種に就職したい、中学校、高等学校の国語科、社会科、英語科の教員になりたい人を求めます。

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

【入学要件】

出願資格を満たし、高等学校長から責任をもって推薦され、合格した場合は確実に入学できる者。

【選抜方式】

書類（調査書及び推薦書）による第1次選考を経て、面接及び小論文による第2次選考を実施します。

【選抜基準】

学業成績や修学状況、思考力・表現力、勉学意欲、国際社会への問題意識等を総合的に評価します。

高等学校で習得すべき内容・水準

・推薦入試（書類審査／小論文・面接）

優れた学業成績を有していること。さらに、幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち、自分の考えを明確な日本語で表現できる文章力を有し、口頭での確に応答できること。

○人間環境課程

教育の目的・目標・方針

【目的】

世界のグローバル化の中で、現代社会は人間の根源的な課題への対応に迫られ、自然科学、社会科学、人間科学の分野から総合的に環境・社会・人に関する理論と方法論の探求が必要とされています。人間環境課程には、生活・環境・技術と健康福祉・スポーツの2選修が設けられています。本課程では、地域や文化の視点から生活や環境を考え、地域に新しい生活環境を創造すること、空気・水などグローバルな自然環境に関して基礎的な知識を身につけ、社会で起こる諸問題の科学的解明とその解決策を構築すること、人間の健康福祉・スポーツについて専門的な知識や技能を身につけ、人がいきいきと暮らす社会づくりを追求することを目的とします。

【目標】

変化の激しい21世紀社会では、人間と環境に対処しうる幅広い視野を持った実践力の高い人材が求められています。本課程では、自然環境、社会環境、地域社会及び家庭環境、並びに健康福祉・スポーツの側面から人間生活を考え、より豊かで、快適な生活を営むための情報処理能力を身につけ、フィールドワークを通して企画立案の出来る人材や健康づくり、社会福祉政策への提言、地域社会におけるスポーツ振興に貢献できる人材を育成します。

【方針】

2選修には、それぞれ2分野が設けられています。1年次では、環境学、社会学、運動学、住居学、健康科学、地域学等の基礎的な科目を履修し、それぞれの分野の専門基礎に関する知識・技能を涵養します。2年次からは、希望する専攻分野で高度な知識・技能や実践力、問題解決能力を深め、4年次においては、環境と社会と人を意識した多様なテーマによる卒業研究を行い、卒業論文にまとめて成果を発表します。

求める学生像

現代社会の具体的な諸問題に取り組むことのできる教養と基礎学力を有し、自然環境、地域社会、人間の文化、健康と福祉、またはスポーツに強い関心をもって、これらの分野に関する高度な知識と先見性、実践力を身につけていく意欲ある学生を求めます。

《生活・環境・技術選修》

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

【入学要件】

出願要件等を満たし、高等学校長から責任をもって推薦され、合格した場合は確実に入学できる者。

【選抜方式】

書類（調査書及び推薦書）による第1次選考を経て、口頭試問を含む面接及び小論文による第2次選考を実施します。

【選抜基準】

学業成績や修学状況，意欲，当該分野の活動歴・能力・知識等を総合的に評価します。

高等学校で習得すべき内容・水準

・推薦入試（書類審査／小論文・面接）

幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち，多角的な視点から地域・生活や環境・技術について考えることができ，かつそれらをよりよくしようと実践することができる高い行動力を有していること。

《健康福祉スポーツ選修》

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

【入学要件】

出願要件等を満たし，高等学校長から責任をもって推薦され，合格した場合は確実に入学できる者。

【選抜方式】

書類（調査書及び推薦書）による第1次選考を経て，実技検査，面接及び小論文による第2次選考を実施します。

【選抜基準】

学業成績や修学状況，意欲，当該分野の活動歴・能力・知識等を総合的に評価します。

高等学校で習得すべき内容・水準

・推薦入試（書類審査／小論文・面接・実技）

スポーツ分野に優れた実績を有していること。さらに，幅広い視野と柔軟な思考力を合わせ持ち，自分の考えを日本語で他者からも分かり易く文章表現ができるとともに，スポーツ分野に関する基礎的な知識を有して，相手の意見を理解し自分の考えを相手に正しく伝えることができ，さらに，スポーツについて基礎的な技量を有していること。

○美術・工芸課程

教育の目的・目標・方針

【目的】

真に豊かな暮らしや文化を育み，言葉や習慣の違いを越えた豊かな心とコミュニケーションを生む美術・工芸を究めるために，日々知性・感性・技術を磨き，社会に貢献する創造者となるべく，人間を豊かに伸ばします。

【目標】

近代美術・工芸を育んだ地の利と，美術・工芸教育の伝統と優れた実績を足がかりとして，理論と実践の両面から幅広く積極的な活動に裏付けられた自信と説得力を身につけ，優秀な教育者や専門家，企業人などの人材を育成します。

【方針】

総合大学の幅広い知や人の刺激を受けながら専門を深めます。1年次では日本画，西洋画，彫刻，デザイン，窯芸，木工工芸，染織工芸，金工工芸，美術理論・美術史及び美術教育の基礎的な内容について一通り履修し，作品制作や理論研究に向けた柔軟な思考力と技能を養います。2年次からは，希望する専攻分野で知識・技術・経験を深め，関連する科目も履修します。4年次には卒業研究が課され，年度末に「卒業制作展」で発表します。

求める学生像

日本画，西洋画，彫刻，デザイン，窯芸，木工工芸，染織工芸，金工工芸，美術理論・美術史及び美術教育の各分野に興味と意欲を持ち，基礎的学力や技能を備え，制作に意欲的に取り組み，表現や理論的な思考などの能力を自ら育てようとする熱意を持って学ぶことにより，優れた教育者や専門家，企業人などを目指す学生を求めます。

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

【入学要件】

出願要件等を満たし，高等学校長から責任をもって推薦され，合格した場合は確実に入学できる者。

【選抜方式】

書類（調査書及び推薦書）による第1次選考を経て，面接及び実技検査による第2次選考を実施します。

【選抜基準】

学業成績や修学状況，意欲・制作活動経験，当該分野の成績・造形力・知識等を総合的に評価します。

高等学校で習得すべき内容・水準

・推薦入試（書類審査／面接・実技）

美術・工芸分野に優れた実績を有していること。さらに，美術・工芸に関する基礎的な知識を有して，相手の意見を理解し自分の考えを相手に正しく伝えることができ，さらに，美術・工芸について基礎的な技量を有していること。

●経済学部

基本理念

現代の経済社会は複雑さをまし，多様に変化しています。このような状況に対応するためには，思考の軸となる専門分野の知識に加え，多分野の知識の習得や情報分析力・コミュニケーション能力の向上が欠かせません。本学部では，それらの多分野の知識の習得と能力育成を実現する教育体系を整備することによって，現代経済社会で生じるさまざまな問題の原因の所在を把握し，対策を提案できる人材の育成を目的としています。

教育目的

経済学・経営学・法学を柱として社会科学の知識と論理を身に付け、現代経済社会の構造と変化を総合的に理解したうえで、個人・企業・地域・国家が直面する問題を分析し解決できる人材を育成することを教育目的にしています。

教育方針

上記のような教育目的を達成するために、以下のような方針をとっています。

- 1．社会の変化に対応し、生涯にわたって学び続ける基盤となる高い水準での読む力・聞く力・話す力・計算する力を育てます。
- 2．1年次から4年次まで専門科目と並行して自然科学・人文科学などの教養科目を学び広い視野をえる教育を行います。
- 3．経済学・経営学・法学を総合的に教育し、多面的に社会事象を把握する能力を育てます。
- 4．1年次より少人数のゼミナール形式の授業を実施し、専門知識を深めながら、批判的思考力やコミュニケーション能力を育てます。

求める学生像

経済学部では以下のような考えや目的をもった学生を求めます。

- (1) 経済社会における課題を発見し解決する能力を経済学部で向上させ、企業や自治体などでの活動を通じて社会に貢献したいと考える人。
- (2) 高度な専門知識を身に付け、経済・経営・法律の分野で専門職業人となることを目指す人。
- (3) 社会の変化に対応するために生涯にわたって学習を続けることの必要性を認識し、その基盤となる幅広い知識と学習能力を大学で得たいと考えている人。

入学者選抜の基本方針

・推薦入試

普通科系の生徒を対象にした入試と商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象とした入試があります。推薦入試は、高等学校が勉学態度と意欲の面からみて大学で学ぶ能力を有すると認めた人物に対して行います。1次選考では、調査書によって高等学校での学習の達成度をみます。2次選考では、小論文で社会科学を学ぶための読解力や論理的な文章を作成する能力をはかり、口頭試問によって学ぶ意欲などをみます。

商業系の科・情報系の科・総合学科の生徒を対象にした入試では簿記検定などの検定合格や資格取得といった経済学部での勉学に関連した学習実績も評価します。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

経済システム課程と経営・法律課程に共通して以下のことを期待します。

(関心・意欲)

社会で生起している問題に関心をもち、自分の興味の所在や考え方をまとめようとする姿勢をもつことが大切です。

（知識・理解）

- （1） 社会で生起している問題を理解するためには幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得していることが大切です。
- （2） 大学での勉学を有意義なものとするには、事実や意見などの情報を読み解き、考えをまとめる国語と英語の学力を身につけておくことが大切です。
- （3） 専門高等学校から進学する方には、普通科目の勉学だけでなく商業科目の基本的な知識と技能を確実に習得し、大学の勉学においてそれらを活かす姿勢が大切です。

●医 学 部

基本理念

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良い医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与します。

○医学科

教育目的

医学、医療の実践において、強い生命倫理観と広い社会的視野により問題を総合的にとらえ、その解決を科学的・創造的に行う医師・研究者を育成します。

教育目標

教育成果として、次のことを達成目標とします。

- 1．高い倫理観と豊かな人間性を育み、他者と共感して良い人間関係を作ることができる。
- 2．医学の知識・技術を修得するとともに、自己学習の習慣を身につける。
- 3．つねに科学的論理的に思考し、問題の本質に迫った解決に努める。
- 4．国内外に対し幅広い視野を持ち、地域社会における医療の意義を理解し、かつ実践する。

教育方針

目標達成に向けて、次の方針の下に教育を実施します。

- 1．実践的学習を重視し、低学年での体験実習から高学年の臨床実習などを通して、医療人としての人間性を育てる。
- 2．“自己学習・自己評価”をモットーとし、基本的事項の徹底習得に向けた教育を行う。
- 3．問題解決型学習（PBL）方式や研究室選択コースなどを通して、科学的・総合的な問題解決能力を育てる。
- 4．地域および国外の医療機関との連携により幅広い学習機会を展開し、幅広い視野を育てる。

求める学生像

本医学科の教育課程を通して目的に沿った人材を育成するために、次のような学生を求めます。

- 1．医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献したいと考える人

2. 他者への思いやりを持ち、コミュニケーションを取ることができる人
3. 学習と医療の研鑽を努力・持続するための忍耐強さを持つ人
4. 本医学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を備えた人
5. 生涯を通して、医学・医療について勉学する意欲のある人

入学者選抜の基本方針

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

1. 求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、多様な選抜方法を実施します。

現時点では、①一般入試（前期日程、後期日程）、②推薦入試、③佐賀県推薦入学特別入試、④帰国子女特別入試、⑤私費外国人留学生特別入試による選抜を行っています。

2. 本医学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行います。

①一般入試では、本学で学習する諸科目を理解できる基礎的学力が備わっているか、また、卒業後医療に従事する際に必要な問題解決、論理的思考、表現の各能力を在学中に修得する力を有しているか、を問うための総合問題、②推薦入試では、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる学力・能力を問うための総合問題による筆記試験を行っています。

3. 医学を学ぶ意欲や医療職者になるための適性を問う試験を行います。

すべての選抜試験において、医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているか、を判断するための面接試験を行っています。

4. 学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行います。

選抜試験の種類により組み合わせが異なるが、センター試験、総合問題試験、面接試験、調査書、高等学校長の推薦書、自己推薦書を総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。特に、面接試験は、総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い場合は不合格とすることがあります。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

医学科における「6年間にわたる医学教育（カリキュラム）」を確実に身につけていくためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく修得しておくことが大切です。特に理科系については、生物、物理、化学の基本的な知識と理解を有していることが望まれます。

○看護学科

教育目的

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。

教育目標

教育成果として、次のことを達成目標とします。

- 1．看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、人を尊重する態度を身につける。
- 2．的確な看護実践ができるように看護の知識と技術を修得する。
- 3．看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身につける。
- 4．社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う。

教育方針

目標達成に向けて、次の方針の下に教育を実施します。

- 1．1年次から4年次まで段階的に行う臨地実習を通して、教室での授業と臨地実習が効果的に相互活用できるように理論と実践を組み合わせた教育を行い、病院や地域社会での保健医療福祉の高度化・多様化に対応できる能力を育てる。
- 2．スモールグループ学習を多く取り入れ、一人一人が自律して問題解決を行う学習態度を育てる。
- 3．国際化・情報化社会に対応できるように、授業や実習において情報機器、視聴覚機材を活用し、保健医療情報の修得やプレゼンテーションができる能力を育てる。

求める学生像

看護学科では次のような人を求めています。

- 1．人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- 2．豊かな感性と表現力を身につけている人
- 3．相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- 4．看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- 5．幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- 6．生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

入学者選抜の基本方針

入学者選抜の「公平性・多様性および評価尺度の多面性」を理念として、次の基本方針に基づき選抜を行います。

- 1．求める学生像に沿った多彩な人材を得るために、多様な選抜方法を実施します。
現時点では、①一般入試（前期日程、後期日程）、②推薦入試、③社会人特別入試、④3年次編入学入試、による選抜を行っています。
- 2．本看護学科の教育課程で学ぶために必要な学力・能力を問う試験を行います。
①一般入試では、提示された課題について、論理的な思考力や適切な表現力によりの確に記述する力を有しているか、を問うための小論文、②推薦入試、③社会人特別入試では、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる学力・能力を問うための総合問題、④3年次

編入学入試では、英語、看護専門基礎分野および看護専門分野の基礎的知識に加え、思考力、判断力等を問うための総合問題による筆記試験を行っています。

3．看護学を学ぶ意欲や医療職者になるための適性を問う試験を行います。

すべての選抜試験において、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているか、を判断するための面接試験を行っています。

4．学力・能力のみならず意欲・適性等を重視した総合評価により選抜を行います。

選抜試験の種類により組み合わせが異なるが、センター試験、小論文試験、総合問題試験、面接試験、調査書、高等学校長の推薦書、自己推薦書を総合的に評価して最終的な合格者を決定しています。特に、面接試験は、総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い場合は不合格とすることがあります。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

看護学科における「4年間にわたる看護学教育」を確実に学習するためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく修得しておくことが大切です。特に理科系については、生物、物理、化学の基本的な知識を理解していることが望まれます。

●理 工 学 部

基本理念および教育目的・目標・方針

理工学部は、理学系の数理科学科、物理科学科、工学系の機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科、および理学と工学が融合した知能情報システム学科、機能物質化学科の7学科より構成されており、基礎に強い技術者、応用に強い科学者を育て、社会に送り出しています。

近年、科学技術の進歩は急速で、産業界のみならず人々の生活にも大きな影響を与えています。科学技術の恩恵を受け、私たちの暮らしは便利で豊かになってきていますが、一方では、地球環境問題など様々な弊害も現れています。そのため、これからの科学・技術者は、地球規模の視野に立った社会的責任を自覚し、科学技術の進展に貢献する責任があります。

こうした社会的要請に応えるため、本学部では、理学と工学の学問体系を基盤として、各専門分野にわたる広い知識を修得させ、かつ個々人の得意分野の能力向上をはかり、個性豊かな人材を育てることを目標としています。また本学部卒業生は、世界を舞台に専門職や研究職として活躍することが期待されますので、日本語や外国語によるコミュニケーション能力の育成にも力を入れています。

入学者選抜の基本方針

理工学の基礎知識に重点をおき、大学入試センター試験に加えて個別試験を課す前期日程入試、大学入試センター試験のみにより幅広い知識の総合力を問う後期日程入試、筆記試験のみでは評価しにくい能力や熱意を問う推薦入試、より高度な専門教育を望む他教育機関からの学生を対象

とした編入学試験などを実施します。帰国子女、留学生など国際性豊かな学生の受け入れも積極的に行います。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

受験生の諸君が高等学校における学習によって身につけた知識やスキルをベースに大学の授業が設計されています。したがって、大学において諸君が期待している理工学に関する最新の知識や技術を学ぶためには、高等学校における幅広い教科の内容を十分に理解する必要があり、入学時には同程度のコンディション（水準）でもってスタートすることが望まれます。そこで、各学科が要求する高等学校段階で習得すべき内容・水準を以下に示します。

○数理科学科

求める学生像

数理科学科は、数学および数理科学の領域において、基礎科学を通して、社会を多様に支える知的素養のある人材を養成しています。そのため、本学科では、主として、次に示すような目的意識と向学心および基礎学力を持っている学生を求めています。1) 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人、2) 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人。

入学者選抜の基本方針

数理科学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と数理分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有し、数学については高等学校で履修した範囲において応用的な能力を有していることを求めます。

○物理科学科

求める学生像

物理学は、物質、相互作用、時間空間などの全ての自然現象を単純で美しい物理法則によって矛盾なく記述し、理解しようというとても夢とロマンに満ちた学問分野です。論理的考察と実験的検証を繰り返し、真理を探求していきます。本学科では、物理学の基礎知識・基礎能力の修得とともに、科学に明るく、柔軟な発想力や思考力を身につけてもらうことを目指しており、本学科の卒業生は物理学の研究者のみならず、企業、官庁、教員など幅広い分野で活躍し高い評価を受けております。このような物理および他の幅広い教養科目を修めるには、物理や数学など理数系の基礎学力、論理的思考力やコミュニケーションに必要な言語能力、そして幅広い基礎的な教養が必要です。これらを入学前に養っている学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

物理科学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と物理分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有し、数学、物理については、高等学校で履修した範囲において応用的能力を有していることを求めます。

○知能情報システム学科

求める学生像

知能情報システム学科では、IT（情報技術）に関する理論、コンピュータを中心とした情報システムの企画・開発・活用などに関する系統的な教育・研究を行っています。本学科では、これらを通じて情報社会の基盤を構築する技術者や教育者、研究者を育成しています。

このような背景から、本学科では、IT に対する興味と、各種ソフトウェアの開発や情報システムの構築に取り組む意欲を持つとともに、急速に進歩をとげている IT に関する幅広い知識や技術を修得するための全般的基礎学力をそなえた学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

知能情報システム学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と IT 関連分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修したすべての教科・科目について、教科書レベルの問題を解くことができることを求めます。

○機能物質化学科

求める学生像

機能物質化学科は、原子、分子あるいは結晶格子レベルでの構造設計によって、ファインセラミックスや機能性高分子材料などの新素材、エレクトロニクスやバイオなどの先端材料の開発研究を行うと同時に、資源のリサイクルや環境の浄化などの問題を解決する“地球に優しい”物質や技術の開発を行っています。したがって、日頃から身の回りにある物質・材料がどのような化合物からできていて、その機能はどのような原理に基づいているのかを調べ、自らの手で新しい機能物質を創り出すことに興味を持つ学生を求めています。化学はもちろん生物、物理、数学など理数系科目が得意で、国語、社会、英語などの基礎学力を十分身に付けた学生を待っています。

入学者選抜の基本方針

機能物質化学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に

必要な基礎学力と化学分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修した教科・科目についての基礎的な知識を有し、機能物質化学科への入学後の専門科目の履修において、理解を助けるため、数学および理科（物理・化学）の標準的な問題を解くことができることを求めます。

○機械システム工学科

求める学生像

航空機、船舶、鉄道、自動車のような輸送機械から発電プラントや各種の動力機械、工作機械やロボットなどの産業用機械、ロケットや人工衛星などの宇宙機器、さらには家電製品や情報・通信機器に至るまで、機械技術がかかわる分野は大変広範です。これからの機械技術は利便性や効率化の追求だけでなく、人間との協調や安全性、地球環境との調和、資源・エネルギー問題などがさらに重要となります。

機械システム工学科のカリキュラムは、入学者および編入学者の全員を対象とした JABEE（日本技術者教育認定機構）に認定された技術者教育プログラムであり、将来幅広い分野で国際的に活躍できる人材育成を目指して学習・教育目標が定められています。本学科では理数系の基礎学力とともに倫理観を持ち、「もの創り」に興味のある人を求めます。

入学者選抜の基本方針

機械システム工学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と機械系分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修した教科・科目についての基礎的な知識を有し、機械システム工学科への入学後の専門科目の履修において、理解を助けるため、数学および物理については概念や定義を十分理解した上で標準的な問題を解くことができることを求めます。

○電気電子工学科

求める学生像

電気電子工学科では、現代社会のあらゆる分野の基礎であるエレクトロニクス産業だけではなく、近年、社会的ニーズが急速に高くなってきた情報関連分野にも多くの人材を輩出しています。したがって、電気電子工学科の学生へは、将来、エレクトロニクスや情報通信（IT）等の電気系専門分野において基礎技術と応用技術を身につけた技術者として活躍できると共に、国際社会や様々なビジネス分野でも通用する幅のある能力を修得することを目指して、多様な専門教育を行っています。大学4年生では研究室で1年間の卒業研究を行い、さらに大学院に進学した場合

は、先端的な研究も実践できます。そのためには、高校時代には、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力を身につけると共に、エレクトロニクスや情報通信関連のハードウェアやソフトウェアなどの「もの創り」、あるいはエネルギーや環境問題などにも興味を持った意欲ある諸君の入学を期待しています。

入学者選抜の基本方針

電気電子工学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と電気電子系分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

高等学校で履修した教科・科目についての基礎的な知識を有し、電気電子工学科への入学後の専門科目の履修において、理解を助けるため、数学および物理の標準的な問題を解くことができることを求めます。

○都市工学科

求める学生像

都市には、交通や水のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤、施設の整備と安全確保が必要とされますが、同時に自然環境や歴史との調和も求められます。デザイン性も強く要求される時代となっています。形態や空間を扱うデザインでは、美的な感性に加えて、人々の思い入れや自然観についても感じることでできる素養が必要です。多くの人達とのコミュニケーション能力も大切になります。

都市工学科は「都市環境基盤コース」と「建築・都市デザインコース」の2コース制により、高度な専門的能力を身につけた多様な人材を育成します。教育方針の特徴は、専門科目のほとんどが選択科目であることです。選択責任が求められますので、チャレンジ精神とやり遂げる強い意志が重要です。

入学者選抜の基礎方針

都市工学科では入学者選抜に際して、客観性、公平性、開放性を旨とし、入学後の教育に必要な基礎学力と都市工学分野の基礎知識および勉学意欲を重視し、多様な入試方法により多面的な観点から多様な人材を受け入れることとしています。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

- 数学・理科（物理、化学）・外国語（英語）の教科について、教科書レベルの基礎的な知識を有し、都市工学の基礎専門科目（数学、力学など）を理解できることを求めます。
- 国語・社会の教科について、基礎的な知識を有し、都市工学分野における問題に関心を持ち、これら問題を多面的に分析し、自分の考えをまとめ、意見交換ができることを求めます。

●農 学 部

今、私たちが生きる21世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様で重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

教育目的・目標・方針

○応用生物科学科

本学科は、ウイルス、糸状菌、線虫、昆虫、植物（作物）、そして哺乳動物に及ぶ多様な生物を材料として、その生命現象及び諸特性の解明、遺伝子工学等の最新技術を応用した有用生物資源の開発・利用並びに環境にも配慮した、その保護に関する教育を行います。

これらの教育を通じて、人口問題、食糧問題、環境問題及びエネルギー問題等の解決に寄与できる、幅広い基礎知識を有し、総合的な問題解決能力を有する人材の育成を目標とします。

○生物環境科学科

本学科は、環境保全及び農業における資源・エネルギー等の課題について、幅広い視野と基礎知識を持ち、高い問題解決能力を持つ技術者・研究者・指導者を育成することを目標とします。

本学科は、次の3コースを有しています。

・生物環境保全学コース

地球、生物、人の調和を図り、環境への負荷の少ない生物生産環境の保全・創出と豊かな生活環境の創造に関する教育を行います。

・資源循環生産学コース

農業における資源、エネルギー、環境等の課題に取り組み、高度な生物生産システムに関する教育を行います。

・地域社会開発学コース

持続的な循環型社会の構築を目指し、国際的視野で民族、地域資源、環境社会、農林水産資源及びビジネス開発に関する教育を行います。

○生命機能科学科

バイオサイエンス、食品、バイオマス、環境等の分野における重要な問題の解決は、社会的急務となっています。本学科は、これらの分野における科学的な知識と分析技術を身に付け、総合的な問題把握とその解決能力を有し、社会に貢献できる応用力の高い技術者、研究者及び指導者の育成を目標とします。

そのために、本学科は、生化学及び分子生物学を基礎として、微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用等に関する教育を行います。

求める学生像

○応用生物科学科

- 1．本学科の教育研究の目的と内容（多様な動植物の生理生態的特性の解明，バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用，有用動植物を加害する病害虫の制御等）についての理解と関心がある人
- 2．問題解決に向けて，粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- 3．本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

○生物環境科学科

- 1．自然環境，社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- 2．持続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
- 3．生物産業及び環境科学の分野において，研究者，技術者として国際的な視野で活躍する意欲がある人

○生命機能科学科

- 1．生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス，食品の生体調節機能，栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- 2．将来，本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人

入学者選抜の基本方針（入試・選抜基準等）

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために，一般入試，推薦入試，3年次編入学試験等の多様な入学試験を実施します。

・推薦入試

第一次選考及び第二次選考により，合格者を決定します。第一次選考では，書類審査（調査書，推薦書，作文等）を行い，高校における学習状況等を評価します。第一次選考の合格者について第二次選考を行います。第二次選考では，思考的な論述力及び勉学意欲を測るために，小論文及び面接（口頭試問を含む）を課します。

・帰国子女特別入試

小論文，口頭試問及び面接を課します。

高等学校段階で習得すべき内容・水準

農学は，農業生産を中心として，医・薬・理・工・経・文など衣食住に関わる多様な分野なら

びに自然環境に至るまでの幅広い分野を有する総合科学です。佐賀大学農学部において、農学の専門教育を受けるためには、高等学校で履修する国語、英語、数学の教科書レベルの学力が必要です。また、佐賀大学農学部の3つの学科では、それぞれの学科の教育内容に応じて次のような知識と学力を持つ学生を求めています。

○応用生物科学科

理科（生物Ⅰ・化学Ⅰ）、英語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）、数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）についての高等学校レベルの知識を修得しているとともに関連した問題を解く能力を持つ人を求めています。

○生物環境科学科

理系から文系に及ぶ広範な専門領域を学ぶことから、国語・英語・数学の素養に加えて、高等学校レベルの理科及び社会の幅広い知識を修得している人を求めています。

○生命機能科学科

化学的手法が多用されることから、化学はもとより、生物、物理、数学等の理系科目に興味を持ち、英語、国語、社会等の基礎学力を修得している人を求めています。

本学部の学生は、一般入試・特別入試（推薦、帰国子女）・編入学の異なる方式で入学していますが、いずれの入学方式においても、各試験科目については高校卒業程度（編入学は短大・高専卒業程度）の理解水準が必要です。また、生物や化学のように、学科が重視する科目については、より深く理解していることが望まれます。

なお、本学部では入学後、高等学校での未履修科目の補習授業を開講し、基礎学力を養う配慮を行っていますが、入学前には志望学科の学習内容に応じた未履修科目への対策が必要であり、特に、センター試験が課されていない特別入試での入学者には入学するまでに十分な準備が求められます。また、編入学生においては、志望学科の専門分野に関する短大・高専卒業程度の理解水準が求められます。

Ⅲ 推薦入試

1 実施する学部・学科・課程・選修・募集人員及び対象となる高等学校の科

「高等学校」とは、高等学校，中等教育学校，高等部を置く特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設等とします。

学 部	学 科 ・ 課 程 ， 選 修	募 集 人 員	対 象 と な る 高 等 学 校 の 科	
文化教育学部 (31人)	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修	(注1)11人	高等学校の全科	
	国 際 文 化 課 程	6 人		
	人 間 環 境 課 程	生 活 ・ 環 境 ・ 技 術 選 修	2 人	高等学校の全科（注3）
		健康福祉・ス ポーツ選修	1 人	高等学校の総合学科（注4）
			7 人	高等学校の全科
	美 術 ・ 工 芸 課 程	4 人		
経済学部 (60人)	経 済 シ ス テ ム 課 程	30人	高等学校の商業系の科（商業高等学校の全科を含みま す。）・情報系の科及び総合学科（注5）	
	経 営 ・ 法 律 課 程	30人	高等学校の普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	
医 学 部 (56人)	医 学 科	(注2)33人	高等学校の全科	
	看 護 学 科	23人	高等学校の全科（うち、2人以内を専門系の科及び総合 学科から募集します。）	
理工学部 (37人)	知能情報システム学科	2 人	高等学校の情報系の科及び総合学科（注6）	
	機 能 物 質 化 学 科	2 人	高等学校の工業系の科及び総合学科（注6）（注7）	
		10人	高等学校の普通科・理数科及び総合学科（注8）	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	5 人	高等学校の機械系の科及び総合学科（注6）	
	電 気 電 子 工 学 科	4 人	高等学校の電気・電子・情報系の科及び総合学科(注6）	
	都 市 工 学 科	4 人	高等学校の土木・建築系の科及び総合学科（注6）	
10人		高等学校の普通科・理数科及び総合学科（注8）		
農 学 部 (30人)	応 用 生 物 科 学 科	3 人	高等学校の専門系の科及び総合学科（注9）	
		7 人	高等学校の全科（ただし、専門系の科を除きます。） （注10）	
	生 物 環 境 科 学 科	3 人	高等学校の専門系の科及び総合学科（注9）	
		12人	高等学校の全科（ただし、専門系の科を除きます。） （注10）	
	生 命 機 能 科 学 科	1 人	高等学校の専門系の科及び総合学科（注9）	
		4 人	高等学校の全科（ただし、専門系の科を除きます。） （注10）	
合 計		214人		

- (注1) 学校教育課程教科教育選修では、国語教育(書写)から3人程度、音楽教育から2人程度、造形教育から3人程度、体育教育から2人程度、情報技術教育から1人程度募集します。
- (注2) 地域枠として16人以内は佐賀県内の高等学校卒業見込み者とし、それ以外は佐賀県を含めた全国の高等学校卒業見込み者とします。
- (注3) 地域・生活文化分野と環境・技術分野でそれぞれ1人募集します。
- (注4) 地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野で1人募集します。高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注5) 高等学校の商業系の科・情報系の科及び総合学科については、商業系の専門教育に関する科目(「産業社会と人間」及び情報処理に関する基礎科目を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注6) 高等学校の総合学科については、それぞれの学科に関係する専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注7) 工業系の科については全科を対象とします。
- (注8) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。
- (注9) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)を20単位以上修得(見込みを含みます。)していること。
- (注10) 高等学校の総合学科については、専門教育に関する科目(「産業社会と人間」を含みます。)の修得単位が20単位未満の者(見込みを含みます。)に限ります。

2 出 願 資 格

推薦入試の出願資格は、下記(1)～(3)のすべての条件を満たす者としします。

なお、以下に記載している「高等学校」とは、高等学校、中等教育学校、高等部を置く特別支援学校及び文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設等とします。

(1) 推 薦 要 件

学部，学科・課程		推 薦 要 件	
文 化 教 育 学 部	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修	次の①～③のすべてに該当し、かつ、④～⑧のいずれかに該当する者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の「全体の評定平均値」が3.5以上であり、各教科の評定平均値に2.0以下がない者 ② 入学後、体育実技等の履修に支障がない者 ③ 将来、小学校の教員を目指す者 ④ 書写・書道に関心があり、将来、教育現場に就職した場合、書写・書道を中心に研究する意欲を持つ者 ⑤ 音楽教育に関して意欲・関心が高く、音楽的能力を有する者 ⑥ 小学校における図画工作教育に関心が高く、造形表現能力が優れた者 ⑦ 運動・スポーツに対して、興味・関心が高く、運動部活動を経験した者で、入学後、当該部活動を実践できる者 ⑧ 情報技術に対して興味・関心が高く、大学において継続して情報技術を向上できる者	
	国 際 文 化 課 程	調査書の学習成績概評がA以上であり、高等学校長が責任をもって推薦できる者	
	人 間 環 境 課 程	全 科 推 薦	学業成績、人物ともに優れ、地域・生活文化分野、環境・技術分野に対して、興味・関心を有し、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、総合学科推薦との重複出願は認めません。 (「14 推薦に際しての留意点 (1)文化教育学部人間環境課程(生活・環境・技術選修)への推薦に際しての留意点」(36ページ)を参照してください。)
		総 合 学 科 推 薦	学業成績、人物ともに優れ、地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野に対して、興味・関心を有し、高等学校長が責任をもって推薦できる者 (「14 推薦に際しての留意点 (1)文化教育学部人間環境課程(生活・環境・技術選修)への推薦に際しての留意点」(36ページ)を参照してください。)
		健康福祉・スポーツ選修	次の①、②に該当し、学業成績、人物等に優れ、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① スポーツ分野において、サッカー、バレーボール、野球、バスケットボール及び他の個人種目で、全国大会レベルの実績を有する者あるいはそれと同等の能力を実証できる者 ② 入学後、当該種目の競技活動を継続できる者
経 済 学 部	美術・工芸課程	学業成績、人物ともに特に優れ、美術又は工芸分野における優れた経験・知識・技術・実績及び熱意があると評価されて、高等学校長が責任をもって推薦できる者	
		情報系・商業系の科及び総合学科推薦	高等学校の成績が最終学年次（最終学年次において外国に留学した者については、その前学年次）に上位10%以内の者で、人物、学力について優れ、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、コース毎等のみの順位による推薦はできません。
		と普通科又はこれに準ずる本科が認められる科推薦	社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ、全体の評定平均値が4.0以上の者で、高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者に限ります。 ① 成績優秀な者(外国語については評定平均値4.3以上とします。) ② 社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者(ただし、この実績については証明する資料を添付してください。) ③ 個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し、推薦に価すると思われる者

学部，学科・課程		推 薦 要 件
医 学 部	医 学 科	次の①，②に該当し，高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績概評がA段階に属し，心身ともに健全である者（㊤に該当する者については，調査書に㊤と標示するよう希望します。） ② 将来，病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者
	看 護 学 科	次の①，②に該当し，高等学校長が責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績概評がA段階に属し，心身ともに健全である者（㊤に該当する者については，調査書に㊤と標示するよう希望します。） ② 将来，病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者
理 工 学 部		学習成績，人物ともに優れ，科学技術に対する熱意と能力があると評価されて，高等学校長が責任をもって推薦できる者 （「14 推薦に際しての留意点」(2)理工学部への推薦に際しての留意点」（36ページ）を参照してください。）
農 学 部		学習成績，人物について優れ，自然科学に対する熱意と能力があると評価されて，高等学校長が責任をもって推薦できる者 ただし，高等学校の専門系の科及び総合学科の対象者は，学習成績概評が，㊤として推薦できる者に限ります。これに該当する者の調査書の「4 学習成績概評」欄に㊤と標示し，「9 備考」欄にその理由を明示してください。

高等学校の情報系の科及び総合学科については，20ページの（注4）～（注10）により，修得単位数を確認ください。

(2) 高等学校を平成23年3月卒業見込みの者

ただし，

文化教育学部については，

文化教育学部人間環境課程の健康福祉・スポーツ選修においては，高等学校を卒業した者を含みます。

経済学部については，

平成22年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。

医学部については，

平成22年度中に高等学校の卒業を認められた者を含みます。

(3) 合格した場合は，**確実に入学**できる者

3 推 薦 人 員

学 部	学科・課程 選修	推 薦 人 員
文化教育学部	学校教育課程 教科教育選修	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	国際文化課程	各高等学校から推薦できる人員は、全日制、定時制及び通信制の各課程からそれぞれ2人以内とします。なお、推薦順位は要しません。
	人間環境課程	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	美術・工芸課程	各高等学校から推薦できる人員は、全日制、定時制及び通信制の各課程からそれぞれ2人以内とします。なお、推薦順位は要しません。
経済学部	経済システム課程	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	経営・法律課程	
医学部	医 学 科	各高等学校から推薦できる人員は、2人以内とします。ただし、佐賀県内の高等学校は、3人以内とします。なお、推薦順位は要しません。
	看 護 学 科	各高等学校から推薦できる人員は、2人以内とします。なお、推薦順位は要しません。
理工学部	知能情報システム学科	前記「2 出願資格」の要件を満たす者であれば、推薦人員を限定しません。
	機能物質化学科	
	機械システム工学科	
	電気電子工学科	
	都 市 工 学 科	
農学部	応用生物科学科	対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から各学科に対して2人以内とします。
	生物環境科学科	
	生命機能科学科	専門系の科及び総合学科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から1人とします。 専門系の科を除く全科は、対象となる各高等学校の全日制、定時制及び通信制の各課程から2人以内とします。

医学部医学科推薦入試について

医学部医学科では、「経済財政改革の基本方針2009」(地域の医師確保)に基づく入学定員増員分のうち、5人については推薦入試に含めて募集します。

これは、佐賀県内の高等学校卒業見込者が、卒業後佐賀県内で医療活動に従事し地域医療を担う人材を育成するための「佐賀県医師修学資金」(貸与人数5人)に貸与申請ができる制度です。

医学科推薦入試の第2次選考受験者で佐賀県内の高等学校卒業見込者全員に、奨学金貸与希望の確認を行います。詳細は、第1次選考結果通知時に文書にて連絡いたします。

1. 「佐賀県医師修学資金」貸与を希望した入学者は、佐賀県に貸与申請を行うことを原則とします。
2. 上記修学資金の貸与は、卒業後、佐賀県が指定する基幹型臨床研修病院において2年間の臨床研修を行い、その後一定期間、県が指定する県内の医療機関において医療活動に従事することを返還免除の条件としているものです。

「佐賀県医師修学資金」については、佐賀県のホームページをご確認ください。

佐賀県ホームページ <http://www.pref.saga.lg.jp>

4 出願方法及び出願期間

- (1) 高等学校長は、提出書類を取りまとめ、次の提出先あて、平成22年11月1日(月)から11月5日(金)17時までに必着するように提出してください。
郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

〔提出先〕

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

- (2) 国公立大学(国際教養大学及び新潟県立大学を除きます。)の推薦入試へ出願することができるのは、1つの大学・学部であるので留意してください。

5 出願に必要な書類等

(1)入学検定料 17,000円 (様式推1-1) (出願書類在中封筒内に同封)	本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(下記注意事項参照) ① 第1次選考(「6 入試方法」参照)の不合格者に対しては、13,000円を返還します。 ② 上記の①に該当する者は、「返還請求書」用紙等を送付しますので、必要事項を記入の上、用紙等を送付する際に指定する期日までに手続を行ってください。 ③ なお、上記①、②及び下記注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。
(2)検定料振込証明台紙 (様式推1-2) (出願書類在中封筒内に同封)	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。
(3)入学志願票 (様式推2) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。
(4)写真2枚(4cm×3cm) 写真票(様式推3) 受験票(様式推4) (出願書類在中封筒内に同封)	上半身脱帽正面向きで3か月以内に撮影したものを写真票(様式推3)及び受験票(様式推4)の所定欄に貼り付けてください。
(5)調 査 書	所定の様式により出身高等学校長が作成し、厳封したもの (注:「学習成績概評」欄に㊦と標示した場合は、必ず「備考」欄にその理由を明示してください。)
(6)高等学校長の推薦書 (様式推5-1～5-6)	各学部所定の推薦書用紙により、出身高等学校長が作成したもの
(7)自己推薦書 (医学部志願者のみ) (様式推6) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の用紙により、出願者本人が作成したもの
(8)活動歴等報告書 (文化教育学部)の学校教育課程教科教育選修及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修志願者のみ) (様式推7)	本学所定の用紙により出身高等学校長が詳細に記入し作成したもの。 学校教育課程教科教育選修(体育教育)及び人間環境課程健康福祉・スポーツ選修を志願する者は、競技者としての実績・成果をみますので上位3大会における本人の大会出場、成績、記録を証する資料(新聞、大会記録書、エントリー表等の写し、競技等の写真等)を、学校教育課程教科教育選修(国語教育(書写)、音楽教育、造形教育)を志願する者は表彰等を証する資料を、学校教育課程教科教育選修(情報技術教育)を志願する者は、取得した資格、合格した検定試験、コンクール等における記録、表彰等を証する資料をそれぞれA4判又はA3判に統一して添付してください。
(9)本人自筆の作文 (文化教育学部)の人間環境課程、経済学部及び農学部志願者のみ) (様式推8) (出願書類在中封筒内に同封)	それぞれの学科・課程を志願する理由、入学後特にしたいことなどについて、志願者本人による自筆の作文を推薦書に添付してください。 作文用紙は、本学所定の用紙を使用し、800字程度とします。
(10)住 所 届 (様式推9) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。
(11)受験票送付用封筒1枚	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、390円切手を貼り付けてください。
(12)高等学校の学校要覧等 (医学部看護学科志願者のみ)	専門系の科又は総合学科からの推薦に限り、概要及びカリキュラムを記載した学校要覧等を提出してください。

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合(「C票 検定料振込証明書」に出納印がない場合)
- ② 振り込み済の「C票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
出願書類を受理した後は、振り込み済の検定料は返還いたしません。

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
- ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
- ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合

なお、返還請求の方法等については、学務部入試課(0952-28-8177)までお問い合わせください。

6 入試方法

(1) 入試方法

高等学校長からの推薦に基づき，提出された調査書及び小論文，面接，実技検査等の結果を総合して決定します。

なお，大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。

[実技検査等]

			大学入試 センター試験	小論文	面接	実 技 検査	その他	備 考
文化 教育 学部	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修		×	○	○	○		面接は口頭試問を含みます。
	国 際 文 化 課 程		×	○	○	×		
	人間環境 課 程	生活・環境・ 技術選修	×	○	○	×		面接は口頭試問を含みます。
		健康福祉・ス ポーツ選修	×	○	○	○		
	美 術 ・ 工 芸 課 程		×	×	○	○		面接は口頭試問を含みます。
経 済 学 部			×	○	○	×		面接は口頭試問を含みます。
医 学 部			×	×	○	×	○	
理 工 学 部			×	○	○	×		面接は口頭試問を含みます。
農 学 部			×	○	○	×		面接は口頭試問を含みます。

(注) ○印は，当該試験等を課すことを示します。

(注) ×印は，当該試験等を課さないことを示します。

(注) 医学部のその他では，論述式による総合的な問題（総合問題）を課します。

(2) 選考は，第1次選考と第2次選考により行います。

① 第1次選考は，書類（調査書，推薦書等）により行い，合否の通知は平成22年11月15日（月）までに推薦した高等学校長及び出願者あてに通知します。文化教育学部（学校教育課程教科教育選修体育教育，美術・工芸課程のみ）及び医学部（医学科，看護学科）は，入学志願者が多い場合には，第2次選考を適切に行うために募集人員の約5倍の人数を第1次選考合格者の目安とします。

② 第2次選考は，調査書，推薦書，小論文，面接，実技検査等により行います。

[配点]

区分 学部・学科等			第 1 次 選 考	第 2 次 選 考						総合得点 (総合評価)	備考	
			書類審査 (調査書、 推薦書等)	調査書、 推薦書等	小論文	面 接	実 技 検 査	その他	計			
文化 教育 学 部	教科 学校 教育 課程	国 語 教 育 (書写)	400		200	100 (注 1)	300		600	1000		
		音 楽 教 育	200		200	200 (注 1)	100		500	700		
		造 形 教 育	400		200	100 (注 1)	300		600	1000		
		体 育 教 育	200		200	200 (注 1)	100		500	700		
		情報技術教育	400		200	200 (注 1)	200		600	1000		
	国 際 文 化 課 程		100		200	100			300	400		
	課 程 人 間 環 境	生活・環境・ 技 術 選 修	200		100	100 (注 1)			200	400		
		健康福祉・ スポーツ選修	200		100	100	100		300	500		
	美 術 ・ 工 芸 課 程		200			400 (注 1)	400		800	1000		
経 済 学 部	経済シス テム課程	普通科又はこ れに準ずると 本学部が認め る科推薦 商業系の 科・情報系 の科・総合 学 科 推 薦	2 段階 評 価 (合 否)		100	2 段階 評 価 (合 否) (注 1)			-	2 段階 評 価 (合 否)		
	経 営 ・ 法律課程											
	経済シス テム課程			40	100							
	経 営 ・ 法律課程											
医 学 部	医 学 科		50			30		120 (注 2)	150	200		
	看 護 学 科											
理 工 学 部	知能情報システム学科		2 段階 評 価 (合 否)			3 段階 評 価 (A,B,C)	3 段階 評 価 (A,B,C) (注 1)			-	総合評価 (良,可,不可)	
	機 能 物 質 化 学 科											
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科											
	電 気 電 子 工 学 科											
	都 市 工 学 科											
農 学 部	応 用 生 物 科 学 科		100		200	200 (注 1)			400	500		
	生 物 環 境 科 学 科		100		200	200 (注 1)			400	500		
	生 命 機 能 科 学 科		100		200	200 (注 1)			400	500		

(注1) 面接は、口頭試問を含みます。

(注2) その他では、論述式による総合的な問題(総合問題)を課します。

(3) 採点・評価基準

学部，学科・課程，選修等			な対 る象 科と	実技検査等	内 容
文 化 教 育 部	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修		全科	小 論 文	出題されたテーマについて，記述された内容をテーマの解釈力，全体的構合力，論理的思考力文章表現力，個性的な独自の視点に重点を置いてみます。
				面 接	専門領域に関する知識や理解，表現力や積極性修学意欲等をみます。
				実 技 検 査	書写・書道では，選択した課題（半紙，条幅）によって書写・書道の基礎能力をみます。音楽では，弾き歌いによって音楽の基礎能力を評価します。造形では，造形に関する基礎的な表現力が身に付いているかをみます。体育では，選択した4種目の基礎運動能力検査結果をデータに基づき評価します。情報技術では，プログラミング又は製作（ものづくり）能力を評価します。
				調査書・活動歴等 報 告 書 等	学業成績，就学状況，部活動，社会活動，各種検定試験合格の有無等をみます。
	国 際 文 化 課 程		全科	小 論 文	問題内容を理解しているか，論理的な思考力を身に付けているか，適切な表現及び的確な記述がなされているかをみます。
				面 接	勉学意欲，国際社会への問題意識等をみます。
				調 査 書	学業成績等をみます。
	人 間 環 境 課 程	生活・環境・技術選修	全科	小 論 文	出題されたテーマに対して，テーマの解釈 構成論理の展開，視点の独自性，表現能力をみます。
				面 接	地域・生活文化分野及び環境・技術分野に必要な知識，自己の目標や意欲を問います。
				調 査 書	学業成績，部活動，社会活動をみます。
			総合学科	小 論 文	出題されたテーマに対して，テーマの解釈 構成論理の展開，視点の独自性，表現能力をみます。
				面 接	志望分野に必要な基礎知識，自己の目標や意欲を問います。
				調 査 書	学業成績，部活動，社会活動をみます。
		健康福祉・スポーツ選修	全科	小 論 文	理解力 論理的思考力 着想力 表現力をみます。
				面 接	専門性，意欲関心，判断力，理解力，態度，学習力をみます。
				実 技 検 査	基礎運動能力，体力，スポーツ技術をみます。
調査書・活動歴等 報 告 書 等				学業成績，部活動（競技歴等），社会活動をみます。	
美 術 ・ 工 芸 課 程		全科	面 接	美術・工芸に関する口頭試問を行い，基礎的知識や制作活動の経験の把握を行うとともに，美術や工芸に関する意欲をみます。学習の目標が明確で，それが美術・工芸課程の内容に合致する者に高い評価を与えます。	
			実 技 検 査	各希望分野の造形力をみます。	
			調 査 書	特に美術・工芸分野に優れた実績を有する者に高い評価を与えます。なかでも，希望専攻分野における成績が特に優れているかをみます。また，出席状況，クラブ活動，日常生活から充実した高校生活を過ごしたと認められる者で，かつ，美術・工芸課程への入学希望理由が明確であるか等をみます。	

学部・学科・課程・選修等	対象となる科目	実技検査等	内 容
経済学部	情報系・商業系の科目及び総合学科	小 論 文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
		面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
		調 査 書 等	学修状況、資格取得状況、クラブ活動等をみます。
	普通科又はこれに準ずると本学部が認める科目	小 論 文	資料を提示のうえ、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。
		面 接	高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。
		調 査 書 等	学修状況、クラブ活動等をみます。
医学部	全 科	総 合 問 題	論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決する能力を評価することを目的とします。
		面 接	医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師・看護職者になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断するために実施します。なお総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い者は不合格とすることがあります。
		調 査 書 等	単に学業成績優秀というのみでなく、心身ともに健全で規則的生活習慣を保ち、学習意欲・積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書によって評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。なお、調査書等については面接にあたっても参考にします。
理工学部	情報系・総合学科	小 論 文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
		面 接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲を問います。
		調 査 書	学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
	機械系・工業系・情報系・電気・電子・土木・建築	小 論 文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
		面 接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲を問います。
		調 査 書	学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
	普通科・理数科・総合学科	小 論 文	出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
		面 接	志望学科に必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲を問います。
		調 査 書	学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。
農学部	専門系の科目及び総合学科	小 論 文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。
		面 接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。
		調 査 書	学業成績、就学状況、部活動及び社会活動をみます。
	専門系の科目を除く全科	小 論 文	出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力をみます。
		面 接	必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。
		調 査 書	学業成績、就学状況、部活動及び社会活動をみます。

(4) 合否判定基準

学部，学科・課程，選修等			対象となる科	内 容
文化 教育 学部	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修		全 科	第 1 次選考「書類（調査書，推薦書及び活動歴等報告書）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，小論文，面接及び実技検査」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
	国 際 文 化 課 程		全 科	第 1 次選考「書類（調査書及び推薦書）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
	人間環境 課 程	生活・環境・ 技術選修	全 科	第 1 次選考「書類（調査書，推薦書及び作文）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
		総合学科		第 1 次選考「書類（調査書，推薦書及び作文）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
		健康福祉・ スポーツ選修	全 科	第 1 次選考「書類（調査書，推薦書，作文及び活動歴等報告書）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，小論文，面接及び実技検査」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。
美 術 ・ 工 芸 課 程			全 科	第 1 次選考「書類（調査書及び推薦書）」及び第 2 次選考「第 1 次選考合格者に対し，面接及び実技検査」の各成績評価を総合して，合格者を決定します。 なお第 1 次選考は，入学志願者が募集人員の約 5 倍を上回り，試験を適切に行うことが困難であると予想される場合に実施します。
経 済 学 部			商 業 系 の 科 ・ 情 報 系 の 科 及 び 総 合 学 科	第 1 次選考については書類選考（調査書，推薦書等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文，面接及び推薦書の成績とを総合して判定します。
			普通科又はこれに準ずると本学部が認める科	第 1 次選考については書類選考（調査書，推薦書等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接の成績とを総合して判定します。
医 学 部			全 科	高等学校長の推薦書，調査書及び自己推薦書により書類選考を行い，第 1 次選考の合格者を決定します。第 2 次選考については，第 1 次選考の合格者に対して，総合問題試験を課し，面接を行い，第 1 次選考結果と総合して最終的な合格者を決定します。
理 工 学 部			情報系・ 総合学科	第 1 次選考については書類選考（調査書，推薦書等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。
			工業系・ 総合学科	第 1 次選考については書類選考（調査書，推薦書等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。
			普通科・ 理数科・ 総合学科	第 1 次選考については書類選考（調査書，推薦書等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。
農 学 部			専門系の科 及び総合学 科	第 1 次選考については書類選考（調査書，作文等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。
			専門系の科 を除く全科	第 1 次選考については書類選考（調査書，作文等）により判定します。第 2 次選考については，第 1 次選考合格者に対し，小論文及び面接等の結果を資料として判定の上，合格者を決定します。

(5) 第2次選考の文化教育学部実技検査について

課程，選修		実 技 検 査 方 法 等
学校教育課程 教科教育選修	国語教育（書写）	①実技検査内容 半紙による楷書，行書の表現及び条幅による古典の臨書 ②持参するもの 筆，墨液，下敷き等（半紙，条幅は不要）
	音楽教育	①実技検査内容 「牧場の朝」（文部省唱歌 小学校音楽科第4学年共通教材）のピアノによる弾き歌い（伴奏楽譜並びに調は指定しない）。
	造形教育	①実技検査内容 水性絵具による静物画 ②持参するもの 水性絵具（透明水彩，不透明水彩，アクリル絵の具のいずれでも可） 鉛筆，水彩用の筆，パレット（水彩用紙，画板，イーゼルは不要）
	体育教育	①実技検査内容 次の各種目から4種目を選択して行います。 A 50m走 D 背筋力 B ハンドボール投げ E 持久走（男子1,500m，女子1,000m） C ランニングジャンプ F 反復横跳び ②留意事項 1）受験者は，横25cm×15cmの大きさの白布2枚に受験番号を太さ1cmの黒色で明確に書き，それを背中と胸の部分に縫い付けた運動着を着用して受験してください。 2）50m走ではスパイクシューズを使用しないでください。 3）体育館用シューズとグラウンド用シューズを持参してください。 4）個人が使用する用具は各自で持参してください。ただし，検査種目で用いるボール等は大学で準備します。 5）雨天の際は，実技検査要領について一部変更することがあります。50m走は往復走を，持久走は踏台昇降運動を行います。その場合，終了時刻が遅れることがあります。
	情報技術教育	①実技検査内容 コンピュータのプログラムの作成又は制御教材等の製作。
人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修		①実技検査内容 次の各種目から2種目を選択して行います。 A 50m走 G 反復横跳び B ハンドボール投げ H サッカー C ランニングジャンプ I バレーボール D 背筋力 J バスケットボール E 握力 K 野球 F 持久走（男子1,500m，女子1,000m） ②留意事項 学校教育課程教科教育選修体育教育の留意事項と同じです。
美術・工芸課程		①実技検査内容 以下の6科目の中から志願時に1つを申告して受験してください。 A 石膏デッサン（木炭） D 平面構成 B 静物デッサン（鉛筆） E 立体造形 A（粘土…ろくろ又は手びねり ^注 ） C 油彩 F 立体造形 B（油土又は木材 ^注 ） 注：試験時に選択 ②持参するもの 下記の基本的な材料，用具は大学で準備します。ただし，下記以外の必要な材料，用具は持参してください。 A，B ……用紙，イーゼル，カルトン C ……キャンバス，イーゼル D ……用紙，下書き用紙，パケツ E，F ……全て大学で用意します。

7 試験日時，実技検査等及び試験場

(1) 第2次選考日 文化教育学部，経済学部，理工学部及び農学部

平成22年11月26日(金)

医学部

平成22年11月27日(土)

(2) 第2次選考は，第1次選考合格者に対し当該学部において下表のとおり行います。

学部，学科・課程			実 施 内 容		試 験 場
文化 教育 学部	学 校 教 育 課 程 教 科 教 育 選 修		9：30～11：00	小 論 文	文化教育学部 (本庄キャンパス)
			12：00～13：30	実 技 検 査	
			14：00～	面 接 (口頭試問を含みます。)(注１)	
	国 際 文 化 課 程		9：30～11：00	小 論 文	
			12：00～	面 接	
	人 間 環 境 課 程	生活・環境・ 技術選修	9：30～11：00	小 論 文	
			12：00～	面 接 (口頭試問を含みます。)	
		健康福祉・ スポーツ選修	9：30～11：00	小 論 文	
			12：00～13：30	面 接 (注２)	
	14：00～		実 技 検 査		
美 術 ・ 工 芸 課 程		9：30～12：30	実 技 検 査		
		13：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)		
経 済 学 部			10：00～11：30	小 論 文	経 済 学 部 (本庄キャンパス)
			12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	
医 学 部			9：10～11：40	総 合 問 題	医 学 部 (鍋島キャンパス)
			13：10～	面 接	
理 工 学 部			10：00～11：30	小 論 文	理 工 学 部 (本庄キャンパス)
			12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	
農 学 部			10：00～11：30	小 論 文	農 学 部 (本庄キャンパス)
			12：30～	面 接 (口頭試問を含みます。)	

(注1) 文化教育学部の学校教育課程教科教育選修(体育教育)では，面接の後，実技検査を行います。なお，受験者数の増減により，「面接」及び「実技検査」の開始時間を変更する場合がありますので留意してください。

(注2) 文化教育学部の人間環境課程健康福祉・スポーツ選修受験者は，受験者数の増減により，「面接」及び「実技検査」の開始時間を変更する場合がありますので留意してください。

8 事前相談を要するみなさんへ

本学において、受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がいの有するなど）は、出願にあたって、次により相談してください。

(1) 相談の時期

平成22年10月8日(金)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志望することとなった場合及び不慮の事故等により障がいの有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

(2) 相談の方法

電話、郵便等にて、下記まで連絡ください。詳細については、その際に説明いたします。

相談及び連絡先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

（電話）0952 - 28 - 8178

9 合格者の発表

- (1) 合格者の発表は、平成22年12月13日(月)14時に本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するほか、推薦した高等学校長及び第2次選考受験者に対し、合否を郵送で通知します。なお、合格者への通知は本学所定の合格通知書をもって通知するとともに、入学手続書類を送付します。

また、情報サービスの一環として合格者発表日の14時30分頃からホームページでも確認できます。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>

- (2) 電話による合否に関する問い合わせには応じません。

10 入学手続

(1) 入学手続期間

入学手続は、平成23年1月17日(月)から1月20日(木)17時までに必着するように発送してください。

期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。

(2) 入学手続の内容

前記⁽¹⁾の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

① 入学手続関係書類

本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し，合格通知書と同時に郵送します。），
写真（２枚）

② 入学料・授業料

入学料：282,000円（入学手続時）{ 予定額 }

授業料：267,900円（前期・後期）[年額535,800円]{ 予定額 }

この金額は，平成22年４月現在のものです。

（留意事項）

① 入学料は，入学時に改定されることがあります。

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用されます。

なお，合格通知書送付の際，納入方法を含め，改めてお知らせします。

② 授業料（前期分）の納入期間は，平成23年４月８日(金)から４月28日(木)です。（入学後に付与される学籍番号が必要です。）

③ 納入した入学料は，いかなる理由があっても返還しません。

④ 入学手続完了者で，特別な事情により平成23年３月31日(木)までに授業料を納入し，なおかつ平成23年３月31日(木)までに入学を辞退し，受理された場合には，納入した者の申し出により，納入済の授業料相当額を返還します。

⑤ 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については，合格者に送付する関係書類を熟読の上，学生生活課に申し出てください。

(3) 注意事項

ア 推薦入試の合格者は，次のイにより許可された者を除くほか，国公立大学（国際教養大学及び新潟県立大学を除きます。）の個別学力検査を受験しても入学許可は得られません。

イ 推薦入試の合格者は，本学へ入学しなければなりません。ただし，特別な事情によって入学辞退の必要が生じた場合には，合格者を推薦した高等学校長から，**平成23年１月21日(金)までに**辞退の理由を付した「**推薦入試入学辞退願**」を**学務部入試課**に提出し，本学の許可を受けなければなりません。（詳細は，合格者に送付する入学手続の案内を参照してください。）

ウ 上記イにより，本学から入学辞退を許可された者は，個別学力検査を受験することができますが，本学の許可を得ることがないまま，国公立大学の個別学力検査を受験しても合格者とはなりません。

また，入学手続をしなかった者も，国公立大学の個別学力検査を受験しても合格者とはなりません。

エ 国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため，受験者氏名及び大学入試センター試験の受験番号に限り，推薦入試の合格及び入学手続き等に関する個人情報が，独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されることをあらかじめお知らせします。

11 不合格者の取扱い

第1次，第2次選考の不合格者で，本学の一般入試（前期日程 平成23年2月25日・26日，後期日程 平成23年3月12日・13日）に出願する場合は，「佐賀大学学生募集要項（一般入試）」に従って，改めて入学検定料を添え，出願してください。

この場合は，大学入試センター試験の受験者に限りますので，注意してください。

12 注 意 事 項

- (1) 推薦入試に関する照会は，返信用の封筒（受取人の住所，氏名及び郵便番号を記入し，80円切手を貼り付けたもの。サイズ定形）を同封の上，下記に問い合わせてください。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952 - 28 - 8178

- (2) 第2次選考時における受験者の宿泊斡旋は行いません。
宿泊を必要とする場合は，次のところに照会すると便利です。
なお，この他，宿泊斡旋を行うところもあります。

- 佐賀大学生生活協同組合

〒840-0027 佐賀市本庄町大字本庄1番地 電話 0952 - 25 - 4450

- JTB（日本交通公社）佐賀支店

〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル内 電話 0952 - 23 - 7161

（最寄りの各支店でも可）

- 日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話 0952 - 24 - 2218

13 第2次選考受験者心得

- (1) 第2次選考受験者は，次により集合してください。

- 文化教育学部，経済学部及び理工学部

平成22年11月26日(金) 9時までに志願学部の指定した場所

- 農学部

平成22年11月26日(金) 9時30分までに農学部の指定した場所

- 医学部

平成22年11月27日(土) 8時40分までに医学部の指定した場所

- (2) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し，受験票を机上の右上に置いてください。机には，受験票，筆記用具，眼鏡及び時計（計時機能だけのもの。）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い，机の下又は横に置いてください。
- (3) 試験時間中，トイレを申し出たい者及び気分の悪くなった者等は，手を挙げて監督者の指示を受けてください。

- (4) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは、直ちに**試験場事務室**に申し出て指示を受けてください。
- (5) 弁当及び湯茶は、各自持参してください。
- (6) **受験できなくなった場合は、試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。**
- (7) 受験票は、合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (8) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また、試験途中での退室は認めません。
- (9) 面接では、受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので、その心づもりでいてください。

14 推薦に際しての留意点

- (1) 文化教育学部人間環境課程（生活・環境・技術選修）への推薦に際しての留意点

文化教育学部人間環境課程の生活・環境・技術選修における推薦入試は、その対象となる高等学校の科が全科推薦と総合学科推薦の二つに分かれています。

全科推薦では、生活・環境・技術選修の地域・生活文化分野と環境・技術分野の2分野においてそれぞれ1人の募集となっています。また、総合学科の推薦の場合は地域・生活文化分野あるいは環境・技術分野で1人の募集となっています。

推薦入試の場合、入学後の分野・選修替えが認められませんので、推薦入試出願の際には希望する分野の選択には十分注意をしてください。地域・生活文化分野と環境・技術分野のそれぞれの分野の内容や特徴については、大学案内及び学部案内をよく読み十分検討してください。

- (2) 理工学部への推薦に際しての留意点

① 推薦入試制度の特色と推薦の要件

本学部において実施する推薦入試制度の特色は、大学入試センター試験を免除して、高等学校から提出される書類並びに小論文及び面接（口頭試問を含みます。）によって可否を判定するところにあります。

本制度は、次のいずれかの項に該当する人物・成績ともに優れた生徒が推薦により入学できる制度です。

ア 情報系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して2人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

イ 工業系の科及び総合学科の優秀な生徒

大学での修学に意欲を燃やす優秀な生徒に対して各学科2～5人の定員枠を確保しており、推薦入試の方法によって入学の道を開き、その優れた素質を伸ばすことを目的としています。

ウ 普通科及び理数科並びに総合学科の優秀な生徒

大学での勉学意欲に燃えている生徒，科学的探究心の旺盛な生徒，積極性に富み，個性豊かな高校生が学力選抜試験に煩わされることなく伸び伸びと高校生活を送った上で本学に入学されることを最大の眼目としています。志望学科の分野に熱意があり，次に示す項目のいずれかに該当する者で，大学において優秀な成績を修め得る素質を有すると高等学校長が判断した生徒を推薦してください。

（ア）学業成績が優秀であり，特に数学，理科に傑出した成績を有する者

（イ）科学的探究心が旺盛で，自然現象の観察記録等に優れた実績を有する者

（ウ）個性豊かで，積極性に富み，高等学校長が特に推薦に価すると判断する者

② 推薦方法

推薦に必要な書類は，次のとおりです。

ア 調査書

イ 推薦書（本学指定様式）

ウ 参考資料（推薦の要件①のウのイ又はウで推薦する場合は，その実績を示す資料等を提出してください。）

15 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科・課程、選修のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表(39ページ)」を参照し、正確に記入してください。
- (3) 記入に当たっては、ペン(黒)又はボールペン(黒)を用い、文字及び数字(算用数字)はていねいに記入してください。
- (4) 印欄は、記入しないでください。

(記入例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サ	カ	イ		マ	ナ	フ	シ				
	29	30	31	32	33	34	35	36	37	44	45	46
漢字氏名	佐		賀				学					
	86	87	88	89	90	91	92	93	94	103	104	105

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生 年 月 日							
男	女	昭和	平成	年		月		日	
①	2	S	(H)	0	4	0	8	2	3
47		48		49	50	51	52	53	54

- 性別及び生年月日欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。
- 生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード(S又はH)を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科・課程、選修」の欄

(文化教育学部の例) (経済学部の例) (医学部の例) (理工学部の例) (農学部の例)

志 望 学 部					志望学科・課程	志 望		志 望		志 望		志 望	
文化教育学部	経済学部	医学部	理工学部	農学部		国際文化	学科	経営・法律	学科	医	学科	機械システム	学科
①	2	5	3	4		選修	課程	選修	課程	選修	課程	選修	課程
						0	7	0	2	0	/	0	5
55						56	57	56	57	56	57	56	57

- 志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。
- 志望の学科・課程、選修名と、「電算処理コード表(39ページ)」により、該当する学科・課程、選修のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「文化教育学部志望者のみ」の欄

(1) 志望分野	人間環境課程生活・環境・技術選修	(2) 実技検査	学校教育課程教科教育選修	(3) 実技選択	1	50m走
	地域・生活文化 分野		体育教育		2	握 力
					3	サイドステップ
					4	バレーボール

- (1)の志望分野は、人間環境課程生活・環境・技術選修志望者が「地域・生活文化分野」又は「環境・技術分野」のいずれかを記入してください。
- (2)の実技検査は、学校教育課程教科教育選修志望者が「国語教育(書写)」、「音楽教育」、「造形教育」、「体育教育」又は「情報技術教育」のいずれかを記入してください。
- (3)の実技選択は、学校教育課程教科教育選修(体育教育)、人間環境課程(健康福祉・スポーツ選修)又は美術・工芸課程志望者が記入してください。ただし、健康福祉・スポーツ選修志望者は2つ、美術・工芸課程志望者は1つ記入してください。

「出願資格」の欄

出身学校所在地及び出身学校名							出 願 資 格														
佐賀 都道 国立 (公立) 府県 私立 佐賀 高等学校							高 等 学 校														
							課 程			学 科							卒業見込み・卒業の別				
							全 日 制	定 時 制	通 信 制	普 通 科	理 数 科	農 業 科	工 業 科	商 業 科	総 合 学 科	1 6 以 外 の 学 科	衛 生 看 護 科	卒 業 見 込 み	卒 業	卒 業 年	
高等学校 等コード	4	/	/	2	3	A	①	2	3	①	2	3	4	5	6	7	7	①	2		
	63	64	65	66	67	68	69			70							71	72	73		

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に「平成23年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。
ただし、「卒業見込み」の者は、卒業年は記入しないでください。

「現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合もありますので、正確に書いてください。
なお、出願後、この欄に変更があった場合には直ちに電話で連絡し、さらに、ハガキ等でも通知してください。

(連絡先) 〒840 - 8502 佐賀市本庄町 1 番地 佐賀大学学務部入試課
電話 0952 - 28 - 8178

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。
なお、出願後、住所に変更があった場合には直ちに電話で連絡し、さらに、ハガキ等でも通知してください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コード
文化教育学部	1
経済学部	2
医学部	5
理工学部	3
農学部	4

《学科・課程，選修コード》

学 部	学科・課程，選修	コード
文化教育学部	学校教育課程	03
	教科教育選修	07
	国際文化課程	08
	人間環境課程	09
経済学部	経済システム課程	01
	経営・法律課程	02
医学部	医 学 科	01
	看 護 学 科	02
理工学部	知能情報システム学科	03
	機能物質化学科	04
	機械システム工学科	05
	電気電子工学科	06
	都市工学科	07
農 学 部	応用生物科学科	01
	生物環境科学科	02
	生命機能科学科	03

16 請求により本人に開示される個人情報

開 示 種 類	平成23年度入学試験成績（書留で郵送）及び調査書（閲覧のみ）
申 請 期 間	平成23年 5 月 2 日(月)～平成23年 6 月30日(木)まで（必着）
受 付 時 間	9：00～17：00（土曜，日曜，祝日を除きます。）
申 請 者	受験者本人に限ります。
申 請 方 法	下記方法により，本学所定の申請書に必要事項を記入の上，申請してください。 なお，電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学 2 郵送（最初に申請書の請求をし，申請書を送付ください）
申請書の請求	郵送により開示を申請する場合は，最初に申請書の請求が必要になります。 本学あての封筒の表面に，「入試情報開示申請書請求」と朱書し，返信用封筒（郵送先を明記し80円切手を貼付したもの。）を同封の上，学務部入試課に請求してください。申請書の請求は，代理人でも可能です。 また，申請書は入試関係HP（ http://www.sao.saga-u.ac.jp/ ）からも取得できます。
申請に際し必要なもの	1 本学受験票.....紛失の際は，写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。なお，受験票は，成績郵送の際等にお返しいたします。 2 返信用封筒（長形 3 号500円切手を貼ったもの）...調査書のための開示請求については，不要です。 3 印鑑（申請書に押印） 【記載方法は，申請書（別紙様式 1）の（注）を参照ください。】
開 示 内 容	当該年度のみ開示します。 ○入学試験成績（受験者本人へ書留で郵送） ・小論文・実技検査・面接等を得点又は段階評価で開示 医学部は，合格者に総点を，不合格者に合格最低点との得点差をランク別で開示します。なお，第 1 次選考不合格者には開示していません。 ○調査書（閲覧のみ） ・窓口で閲覧となります（ただし「指導上参考となる諸事項」と「備考欄」は非開示）
開示手続期間	申請受付から発送まで，3 週間程度かかりますので御了承ください。

（個人情報の取扱いについて）

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い，入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については，入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に，教育目的等（入学料・授業料免除，（入学料徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

本学が取得した個人情報は，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第 9 条に規定されている場合を除き，出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

17 入学後の選修及びコース

学 部	学科・課程	入学後の所属	備 考
文 化 教 育 学 部	国 際 文 化 課 程	日本・アジア文化選修	入学後それぞれの選修に分かれます。
		欧米文化選修	
経 済 学 部	経済システム課程	国際経済社会コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		総合政策コース	
	経営・法律課程	企業経営コース	
		法務管理コース	
理 工 学 部	機能物質化学科	物質化学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		機能材料化学コース	
	都 市 工 学 科	都市環境基盤コース	入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。
		建築・都市デザインコース	
農 学 部	生 物 環 境 科 学 科	生物環境保全学コース	入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。
		資源循環生産学コース	
		地域社会開発学コース	

18 過去3ヶ年の志願者等状況

学部・学科・課程等			対象となる 高等学校の科	平成20年度					平成21年度					平成22年度				
				募集人数	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人数	志願者	受験者	合格者	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
文化 教育 学部	学校教育課程 教科教育選修	全科	11	50	45	13	13	11	33	33	11	11	11	22	22	11	11	
	国際文化課程	全科	6	18	18	6	6	6	9	9	6	6	6	18	18	6	6	
	人間 環境 課程	生活・ 環境・ 技術選修	全科	2	6	6	2	2	2	4	4	2	2	2	5	5	3	3
		総合学科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	
	健康福祉・ スポーツ 選修	全科	7	19	19	8	8	7	22	22	9	9	7	12	12	8	8	
	美術・工芸課程	全科	4	32	21	5	5	4	27	21	5	5	4	22	22	4	4	
	小　　計		31	126	110	35	35	31	95	89	33	33	31	80	80	33	33	
経済 学部	経済システム課程	商業系の科・情 報系の科及び総 合学科	30	11	10	5	5	30	8	8	3	3	30	4	4	4	4	
	経営・法律課程	37		36	25	25	34		34	27	27	39		39	26	26		
	経済システム課程	普通科又はこれ に準ずると本学 部が認める科	30	42	42	12	12	30	37	37	17	17	30	47	46	17	17	
	経営・法律課程	57		56	21	21	33		33	13	13	47		47	13	13		
	小　　計		60	147	144	63	63	60	112	112	60	60	60	137	136	60	60	
医学 部	医学科	全科	25	89	89	26	26	25	71	70	26	26	28	71	70	28	28	
	看護学科	全科（注）	23	51 (3)	51 (3)	26 (1)	26 (1)	23	62 (1)	62 (1)	24 (0)	24 (0)	23	54 (3)	54 (3)	23 (0)	23 (0)	
	小　　計		48	140	140	52	52	48	133	132	50	50	51	125	124	51	51	
理 工 学 部	知能情報システム学科	情報系の科・ 総合学科	2	2	2	2	2	2	8	8	4	4	2	12	12	4	4	
	機能物質化学科	工業系の科・ 総合学科	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	
		普通科・理数科・ 総合学科	10	22	22	14	14	10	19	19	11	11	10	19	19	12	12	
	機械システム工学科	機械系の科・ 総合学科	5	12	12	6	6	5	7	7	7	7	5	12	12	6	6	
	電気電子工学科	電気・電子・ 情報系の科・ 総合学科	4	9	9	5	5	4	5	5	4	4	4	15	15	5	5	
	都市工学科	土木・建築系の 科・総合学科	4	14	13	7	7	4	5	5	4	4	4	8	8	5	5	
		普通科・理数科・ 総合学科	10	34	34	12	12	10	26	26	12	12	10	19	19	12	12	
	小　　計		37	94	93	47	47	37	72	72	44	44	37	88	88	46	46	
農 学 部	応用生物科学科	専門系の科・ 総合学科	3	8	8	3	3	3	6	6	3	3	3	7	7	3	3	
		専門系の科を除 く全科	7	24	24	7	7	7	19	19	7	7	7	22	22	7	7	
	生物環境科学科	専門系の科・ 総合学科	3	4	4	3	3	3	8	8	4	4	3	2	2	2	2	
		専門系の科を除 く全科	12	24	24	13	13	12	33	33	12	12	12	26	26	15	15	
	生命機能科学科	専門系の科・ 総合学科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		専門系の科を除 く全科	4	16	16	5	5	4	13	13	5	5	4	31	31	5	5	
	小　　計		30	77	77	32	32	30	80	80	32	32	30	89	89	33	33	
合　　計			206	584	564	229	229	206	492	485	219	219	209	519	517	223	223	

医学部看護学科の（ ）は、専門系の科及び総合学科で内数
（注） 2人以内を、専門系の科及び総合学科から募集します。

帰国子女特別入試

Ⅳ 帰国子女特別入試

1 実施する学部，学科，募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員	備 考
医 学 部	医 学 科	若 干 人	
理 工 学 部	数 理 科 学 科	各学科とも 若 干 人	
	物 理 科 学 科		
	知能情報システム学科		
	機 能 物 質 化 学 科		
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		
	電 気 電 子 工 学 科		
農 学 部	都 市 工 学 科	各学科とも 若 干 人	
	応 用 生 物 科 学 科		
	生 物 環 境 科 学 科		
	生 命 機 能 科 学 科		

（注）募集人員の若干人は，一般選抜後期日程の募集人員に含まれます。

2 出 願 資 格

● 医学部

日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって，外国の学校教育を受けた者のうち保護者とともに2年以上継続して外国に在留し，次のいずれかに該当する者とします。

ただし，平成21年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除きます。）した者及び保護者が帰国した後，本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は，出願を認めません。

- (1) 学校教育における12年の課程を卒業（修了）した者又は平成23年3月31日までに卒業（修了）見込みの者で，原則として，外国において最終学年を含め2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者

ただし，外国に設置された学校等であっても，日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は，「2年以上」という期間には算入しません。

- (2) 外国において，スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を授与された者で，平成23年3月31日までに18歳に達する者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において，大学入学資格として認められているアビトゥア資格を授与された者で，平成23年3月31日までに18歳に達する者
- (4) フランス共和国において，大学入学資格として認められているバカロレア資格を授与された者で，平成23年3月31日までに18歳に達する者

● 理工学部及び農学部

日本国籍を有する者及び日本国の永住権を得ている者であって，外国の学校教育を受けた者のうち，次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含みます。）を外国又は日本において、平成21年4月1日から平成23年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者
ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。
- (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成21年又は平成22年に授与された者で、平成23年3月31日までに18歳に達する者
- (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成21年又は平成22年に授与された者で、平成23年3月31日までに18歳に達する者
- (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成21年又は平成22年に授与された者で、平成23年3月31日までに18歳に達する者

3 出願方法及び出願期間

平成22年11月1日(月)から11月5日(金)17時までに必着するように提出してください。

郵送の場合は、「速達書留」とし、本学所定の封筒を使用してください。

〔提出先〕

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

4 出願に必要な書類等

(1) 入学検定料 17,000 円 (様式帰 1 - 1) (出願書類在中封筒内に同封)	本要項に添付の検定料振込依頼書を使用し、銀行窓口において検定料を納入してください。(下記注意事項参照) ① 第 1 次選考(「5 入試方法」参照)の不合格者に対しては、13,000 円を返還します。 ② 上記の①に該当する者は、「返還請求書」用紙等を送付しますので、必要事項を記入の上、用紙等を送付する際に指定する期日までに手続を行ってください。 ③ なお、上記①、②及び下記注意事項の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は一切返還しません。
(2) 検定料振込証明台紙 (様式帰 1 - 2) (出願書類在中封筒内に同封)	上記検定料を納入後、銀行窓口において受領する「C 票 検定料振込証明書」を本要項添付の台紙に貼り付けてください。
(3) 入学志願票 (様式帰 2) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の入学志願票に必要事項を自筆で記入してください。
(4) 写真 2 枚(4 cm × 3 cm) 写真票(様式帰 3) 受験票(様式帰 4) (出願書類在中封筒内に同封)	上半身脱帽正面向きで 3 か月以内に撮影したものを写真票(様式帰 3)及び受験票(様式帰 4)の所定欄に貼り付けてください。
(5) 身上記録書 (様式帰 5) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の身上記録書に必要事項を自筆で記入してください。(理工学部については、最終出身学校の所見の記録があるもの)
(6) 卒業(修了)証明書又は 卒業(修了)見込証明書	最終卒業(修了)学校の証明書 なお、医学部については、卒業(修了)学校の沿革、概要及びカリキュラムを記載した学校要覧等を、可能であれば提出してください。
(7) 在学期間証明書	外国において、2 年以上継続して学校教育を受けたことを証するもの
(8) 成績証明書	・最終卒業(修了)学校の証明書 なお、日本の高等学校に在学したことがある場合は、当該高等学校長の作成した所定の調査書も併せて提出してください。 ・飛び級や繰り上げ卒業等の事実があれば記載してください。 ・科目名、成績評価等が符号又は略字等により表示されている場合は、その説明書を添付してください。
(9) IB 資格証書(写)等	国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を取得した者は、その資格証書の写しと国際バカロレア最終試験 6 科目の成績証明書を提出してください。
(10) 一般的大学入学資格 証明書	ドイツ連邦共和国において、一般的大学入学資格(アビトゥア資格)を取得した者は、その資格証明書の写しを提出してください。
(11) バカロレア資格証書等	フランス共和国において、バカロレア資格を取得した者は、その資格証書の写しとバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
(12) 国家試験等の統一試験 成績評価証明書	各国の教育制度による、次の国家試験等の統一試験を受験している者は、成績証明書を必ず提出してください。 ・Scholastic Aptitude Test (SAT) (アメリカ) ・American College Testing-Examination (ACT) (アメリカ) ・General Certificate of Education (GCE) (イギリス) ・その他の国の成績評価証明書(なお、統一試験制度についての公式資料等を添付してください。)
(13) 在留資格を証明する 書類	日本国の永住権を得ている者は、外国人登録原票記載事項証明書を提出してください。
(14) 帰国証明書等 (医学部志願者のみ)	入国管理事務所(法務省)発行のものを提出してください。この場合、入国査証の写(顔写真及び氏名等が記載された頁、出国及び帰国のスタンプが押印された頁)でも構いません。 出願時に海外に在住する者は、日本国の在外公館発行の海外在留証明書を提出してください。
(15) 本人及び保護者の 海外在留証明書等 (様式自由) (医学部志願者のみ)	在外公館又は保護者の所属する機関の長による海外在留証明書(滞在期間、在留地を明記したもの)を提出してください。
(16) 住所届 (様式帰 6) (出願書類在中封筒内に同封)	本学所定の住所届に必要事項を自筆で記入してください。
(17) 受験票送付用封筒 1 枚	受験票を送付しますので、本学所定の封筒の表面に受取人の住所、氏名、郵便番号を明記の上、390 円切手を貼り付けてください。

注 意 事 項

下記の場合は出願を受理しません。

- ① 検定料が振り込まれていない場合(「C 票 検定料振込証明書」に出納印がない場合)
 - ② 振り込み済の「C 票 検定料振込証明書」が、検定料振込証明台紙に貼り付けられていない場合
- 出願書類を受理した後には、振り込み済の検定料は返還いたしません。

次の場合は、検定料の返還請求ができますので、必ず手続きしてください。

- ① 検定料を振り込んだが、本学に出願書類を提出しなかった場合
 - ② 検定料を振り込み、本学に出願書類を提出したが、受理されなかった場合
 - ③ 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- なお、返還請求の方法等については、学務部入試課(0952 - 28 - 8177)までお問い合わせください。

5 入試方法

(1) 入試方法

出願書類に基づき、本学が行う小論文等及び面接の結果を総合して決定します。

なお、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。

(2) 選考は、第1次選考と第2次選考により行います。

- ① 第1次選考は、出願書類により行い、可否の通知は、平成22年11月15日(月)までに、本人あて（志願票に記載された第1次選考結果通知書の送付先）に通知します。

なお、通知先が外国の場合は、本人あての通知のほか志願票に記載された日本における連絡者に可否結果（写）を送付します。

- ② 第2次選考は、小論文等及び面接により行います。

(3) 採点評価基準

① 医学部

ア 総合問題の採点・評価基準

論述方式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決する能力を評価することを目的とします。

イ 面接の採点・評価基準

志望の動機、学習意欲・積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうか総合的に判断します。

なお、総合判定の重要な資料とするとともに、評価が低い者は不合格とすることがあります。

② 理工学部及び農学部

ア 小論文の採点・評価基準

出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等をみます。

イ 面接の採点・評価基準

必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。

(4) 可否判定基準

① 医学部

第1次選考については書類選考により判定します。第2次選考については、第1次選考合格者に対し、総合問題を課し、面接を行い、第1次選考結果と総合して判定します。

② 理工学部及び農学部

第1次選考については、書類選考（成績証明書等）により判定します。第2次選考については、第1次選考合格者に対し、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。

6 試験日時，学力検査等及び試験場

- (1) 第2次選考日 理工学部及び農学部

平成22年11月26日(金)

医学部

平成22年11月27日(土)

- (2) 第2次選考は，第1次選考合格者に対し当該学部において下表のとおり行います。

学 部	実 施 内 容		試 験 場
医 学 部	9：10～11：40	総 合 問 題	医 学 部 (鍋島キャンパス)
	13：10～	面 接	
理 工 学 部	10：00～11：30	小 論 文	理 工 学 部 (本庄キャンパス)
	12：30～	面 接(口頭試問を含みます。)	
農 学 部	10：00～11：30	小 論 文	農 学 部 (本庄キャンパス)
	12：30～	面 接(口頭試問を含みます。)	

7 事前相談を要するみなさんへ

本学において，受験上及び修学上の配慮を必要とされる志願者（障がい等を有するなど）は，出願にあたって，次により相談してください。

- (1) 相談の時期

平成22年10月8日(金)まで

なお，相談の内容によっては，本学の試験までに対応できず，配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので，可能な限り早めに相談してください。

また，期限後に本学を志望することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は，その時点で速やかに相談してください。

- (2) 相談の方法

電話，郵便等にて，下記まで連絡ください。詳細については，その際に説明いたします。

相談及び連絡先

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課

TEL 0952 - 28 - 8178

8 合格者の発表

- (1) 合格者の発表は、平成22年12月13日(月)14時に本学「学務部入試課（佐賀市本庄町1番地）」前に合格者の受験番号を掲示するとともに、「日本国内の連絡先」あてに通知します。

なお、合格者への通知は本学所定の合格通知書をもって通知するとともに、入学手続書類を送付します。

また、情報サービスの一環として合格者発表日の14時30分頃からホームページでも確認できます。

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/>

- (2) 電話による合否に関する問い合わせには応じません。

9 入学手続

- (1) 入学手続期間

入学手続は、平成23年1月17日(月)から1月20日(木)17時までに必着するように発送してください。

期間内に入学手続をしなかった者は、入学辞退者とします。

- (2) 入学手続の内容

前記⁽¹⁾の入学手続期間内において、次に掲げる関係書類の提出及び入学料の納入を完了してください。

- ① 入学手続関係書類

本学所定の誓約書及び学生カード（合格者に対し、合格通知書と同時に郵送します。）、写真（2枚）

- ② 入学料・授業料

入学料：282,000円（入学手続時）{ 予定額 }

授業料：267,900円（前期・後期）[年額535,800円] { 予定額 }

この金額は、平成22年4月現在のものです。

（留意事項）

- ① 入学料は、入学時に改定されることがあります。

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

なお、合格通知書送付の際、納入方法を含め、改めてお知らせします。

- ② 授業料（前期分）の納入期間は、平成23年4月8日(金)から4月28日(木)です。（入学後に付与される学籍番号が必要です。）

- ③ 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

- ④ 入学手続完了者で、特別な事情により平成23年3月31日(木)までに授業料を納入し、なおかつ平成23年3月31日(木)までに入学を辞退し、受理された場合には、納入した者の申し出

により、納入済の授業料相当額を返還します。

- ⑤ 入学料の免除及び徴収猶予ならびに授業料の免除については、合格者に送付する関係書類を熟読の上、学生生活課に申し出てください。
- (3) 帰国子女特別入試の合格者となった後、特別な事情によって入学辞退の必要が生じた場合には、平成23年1月21日(金)までに辞退の理由を付した「帰国子女特別入試入学辞退願」を学務部入試課に提出しなければなりません。(詳細は、合格者に送付する入学手続の案内を参照してください。)

10 不合格者の取扱い

第1次、第2次選考の不合格者で、本学の一般入試(前期日程 平成23年2月25日・26日、後期日程 平成23年3月12日・13日)に出願する場合は、「佐賀大学学生募集要項(一般入試)」に従って、改めて入学検定料を添え、出願してください。

この場合は、大学入試センター試験の受験者に限りますので、注意してください。

11 注 意 事 項

- (1) 現在外国に在住している者は、日本における連絡者との間に十分な連絡体制をとっておいてください。
- (2) 帰国子女特別入試に関する照会は、返信用の封筒(受取人の住所、氏名及び郵便番号を記入し、80円切手を貼り付けたもの。サイズ定形)を同封の上、下記に問い合わせてください。

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
(電話) 0952 - 28 - 8178

- (3) 第2次選考時における受験者の宿泊斡旋は行いません。
宿泊を必要とする場合は、次のところに照会すると便利です。
なお、この他、宿泊斡旋を行うところもあります。

- 佐賀大学生生活協同組合

〒840-0027 佐賀市本庄町大字本庄1番地 電話 0952 - 25 - 4450

- JTБ (日本交通公社) 佐賀支店

〒840-0825 佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル内 電話 0952 - 23 - 7161

(最寄りの各支店でも可)

- 日本旅行佐賀支店

〒840-0816 佐賀市駅南本町3-7 電話 0952 - 24 - 2218

12 第2次選考受験者心得

- (1) 第2次選考受験者は、次により集合してください。
 - 理工学部
平成22年11月26日(金) 9時までに理工学部の指定した場所
 - 農学部
平成22年11月26日(金) 9時30分までに農学部の指定した場所
 - 医学部
平成22年11月27日(土) 8時40分までに医学部の指定した場所
- (2) 試験室では受験番号と机上の番号が一致するように着席し、受験票を机上の右上に置いてください。机上有には、受験票、筆記用具、眼鏡及び時計（計時機能だけのもの。）以外のものは置かないでください。その他の荷物は監督者の指示に従い、机の下又は横に置いてください。
- (3) 試験時間中、トイレを申し出たい者及び気分の悪くなった者等は、手を挙げて監督者の指示を受けてください。
- (4) 受験票を忘れたとき又は紛失したときは、直ちに**試験場事務室**に申し出て指示を受けてください。
- (5) 弁当及び湯茶は、各自持参してください。
- (6) **受験できなくなった場合は、試験日の前日までに学務部入試課まで連絡してください。**
- (7) 受験票は、合格者発表後の入学手続の際に必要なので保管しておいてください。
- (8) 試験開始後30分以上遅刻した者は入室できません。また、試験途中での退室は認めません。
- (9) 面接では、受付入室から退室解散までの所要時間が多少長くなることもあるので、その心づもりでいてください。

13 入学志願票等の記入上の注意及び記入例

- (1) 志願票の記入に当たっては、募集要項を熟読の上、下記の「記入例」に従い記入してください。
- (2) 学科のコード番号を記入する欄は「電算処理コード表(54ページ)」を参照し、正確に記入してください。
- (3) すべての書類の記入に当たっては、ペン(黒)又はボールペン(黒)を用い、文字及び数字(算用数字)はていねいに記入してください。
- (4) 印欄は、記入しないでください。

(記 入 例)

「氏名」の欄

フリガナ (カタカナ)	サ	カ	イ		マ	ナ	フ	ウ				
	29	30	31	32	33	34	35	36	37	44	45	46
漢字氏名	佐		賀				学					
	86	87	88	89	90	91	92	93	94	103	104	105

「性別」及び「生年月日」の欄

性別		生 年 月 日							
男	女	昭和	平成	年	月	日			
①	2	S	(H)	0	4	0	8	2	3
47		48	49	50	51	52	53	54	

- 性別及び生年月日欄は、該当するコード番号の数字を○で囲んでください。
- 生年月日欄は、昭和・平成の該当するコード(S又はH)を○で囲み、生年月日は、1ケタの場合は右づめとし、前1コマに「0」を記入してください。なお、平成元年は、01と記入してください。

「志望学部」及び「志望学科」の欄

志 望 学 部		
医 学 部	理 工 学 部	農 学 部
5	③	4
55		

(医学部の例)

志 望 学 科	
医	学
0	/
56	57

(理工学部の例)

志 望 学 科	
機械システム	I
0	5
56	57

(農学部の例)

志 望 学 科	
応用生物	科
0	/
56	57

- 志望学部のコード番号の数字を○で囲んでください。
- 志望の学科名と、「電算処理コード表(54ページ)」により、該当する学科のコード番号の数字を1コマ1ケタずつ、正確に記入してください。

「出願資格」の欄

出身学校所在地及び出身学校名								出 願 資 格																
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高等学校 学 校								高等学校卒業者（卒業見込みを含みます。）												高校 以外				
								課 程			学 科									卒業見込み・卒業の別		外国 の学 校等	文部科学大臣の 指定した者	
								全 日 制	定 時 制	通 信 制	普 通 科	理 数 科	農 業 科	工 業 科	商 業 科	総 合 学 科	1 6 以 外 の 学 科	衛 生 看 護 科	卒 業 見 込 み	卒 業	卒 業 年			
高 等 学 校 等 コ ー ド	4 63	/ 64	/ 65	2 66	3 67	A 68		①	2	3	①	2	3	4	5	6	7	7	①	2			1	3
									69						70				71	72	73		74	

●高等学校卒業者（卒業見込みを含みます。）

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に「平成23年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校卒業者（卒業見込みを含みます。）」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。

ただし、「卒業見込み」の者は、卒業年は記入しないでください。

●高等学校卒業者以外の者

- 「出身学校所在地及び出身学校名」欄に所要事項を記入し、該当事項を○で囲んでください。
- 「高等学校等コード」欄に「平成23年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- 「高等学校卒業者以外」欄の該当する事項のコード番号の数字を○で囲んでください。

「文部科学大臣の指定した者」とは、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達した者、アビトゥア資格を有する者で18歳に達した者等のことをいいます。

「出願時における現住所及び連絡先等」の欄

- 本学から出願書類等について連絡する場合がありますので、正確に書いてください。

なお、出願後、この欄に変更があった場合には直ちに電話で連絡し、さらに、ハガキ等でも通知してください。

（連絡先）〒840 - 8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学学務部入試課
電話 0952 - 28 - 8178

「日本における連絡者の氏名、連絡先（電話）及び住所」の欄

- 志願者が外国に在住する場合、第1次選考結果（写）の送付及び出願書類等について緊急に連絡を必要とする場合がありますので、志願者と十分に連絡体制がとれる者を記載してください。

「住所届」

- 合格通知書は、これに記載された現住所に送付しますので、正確に書いてください。

なお、出願後、住所に変更があった場合には直ちに電話で連絡し、さらに、ハガキ等でも通知してください。

電算処理コード表

《学部コード》

学 部	コード
医 学 部	5
理 工 学 部	3
農 学 部	4

《学科コード》

学部	学 科	コード
医学部	医 学 科	01
理 工 学 部	数 理 科 学 科	01
	物 理 科 学 科	02
	知能情報システム学科	03
	機 能 物 質 化 学 科	04
	機械システム工学科	05
	電 気 電 子 工 学 科	06
	都 市 工 学 科	07
農 学 部	応 用 生 物 科 学 科	01
	生 物 環 境 科 学 科	02
	生 命 機 能 科 学 科	03

14 請求により本人に開示される個人情報

開 示 種 類	平成23年度入学試験成績（書留で郵送）
申 請 期 間	平成23年 5 月 2 日(月)～平成23年 6 月30日(木)まで（必着）
受 付 時 間	9：00～17：00（土曜，日曜，祝日を除きます。）
申 請 者	受験者本人に限ります。
申 請 方 法	下記方法により，本学所定の申請書に必要事項を記入の上，申請してください。 なお，電話及び代理人による申請は認めません。 1 直接来学 2 郵送（最初に申請書の請求をし，申請書を送付ください）
申請書の請求	郵送により開示を申請する場合は，最初に申請書の請求が必要になります。 本学あての封筒の表面に，「入試情報開示申請書請求」と朱書し，返信用封筒（郵送先を明記し80円切手を貼付したもの。）を同封の上，学務部入試課に請求してください。 申請書の請求は，代理人でも可能です。 また，申請書は入試関係HP（ http://www.sao.saga-u.ac.jp/ ）からも取得できます。
申 請 に 際 し 必 要 な も の	1 本学受験票.....紛失の際は，写真入りの公的身分証明書等を持参してください。その際も受験番号は明確にする必要があります。 2 返信用封筒（長形 3 号500円切手を貼ったもの） 3 印鑑（申請書に押印） 【記載方法は，申請書（別紙様式 1 ）の（注）を参照ください。】
開 示 内 容	当該年度のみ開示します。 ○入学試験成績（受験者本人へ書留で郵送） ・小論文・面接等を段階評価で開示 医学部は，合格者に総点を，不合格者に，合格最低点との得点差をランク別に開示します。なお，第 1 次選考不合格者には開示していません。
開示手続期間	申請受付から発送まで，3 週間程度かかりますので御了承ください。

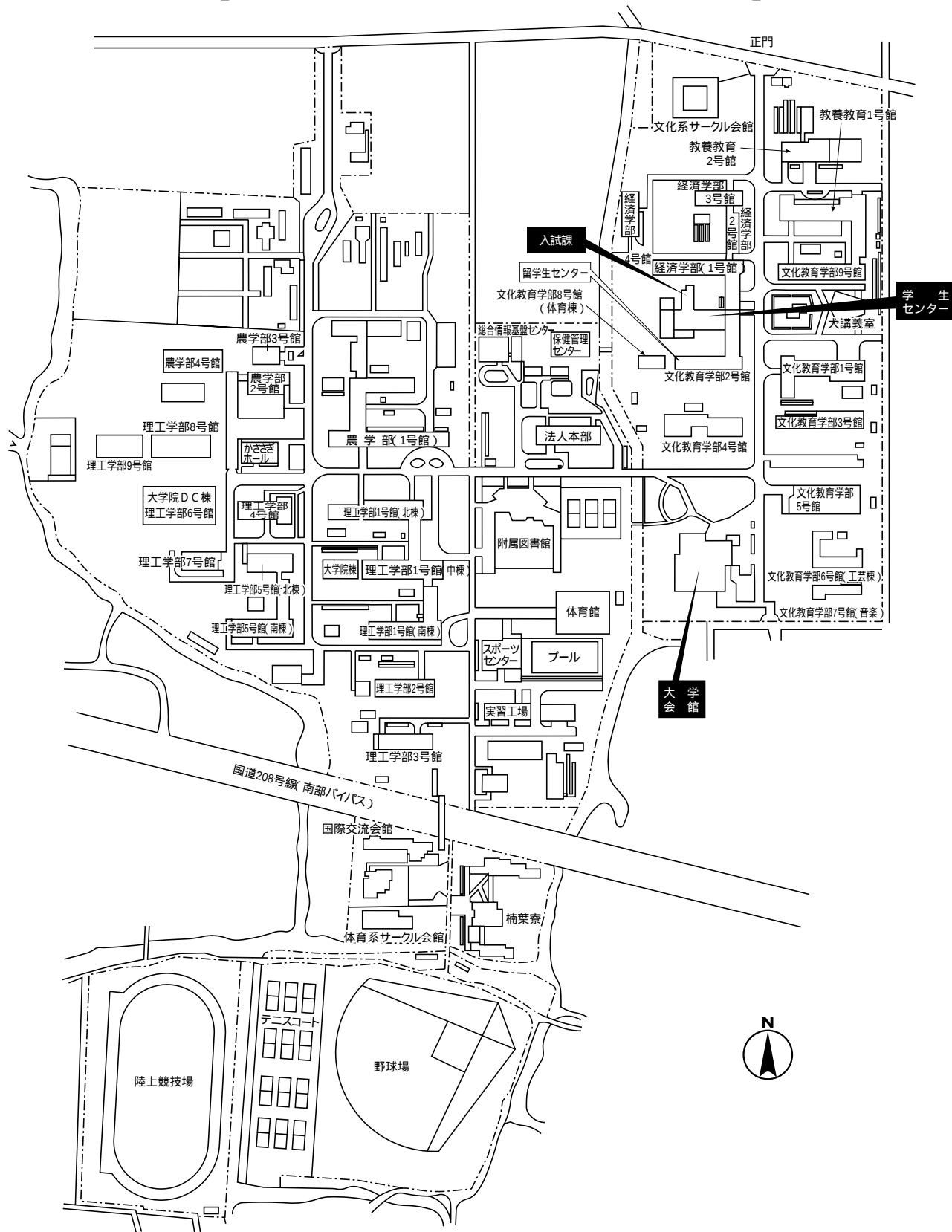
（個人情報の取扱いについて）

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行に伴い，入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については，入学者選抜に係る業務（統計処理などの付随する業務を含む。）以外に，教育目的等（入学料・授業料免除，（入学料徴収猶予）及び奨学金等を含む。）に利用します。

本学が取得した個人情報は，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第 9 条に規定されている場合を除き，出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供する事はありません。

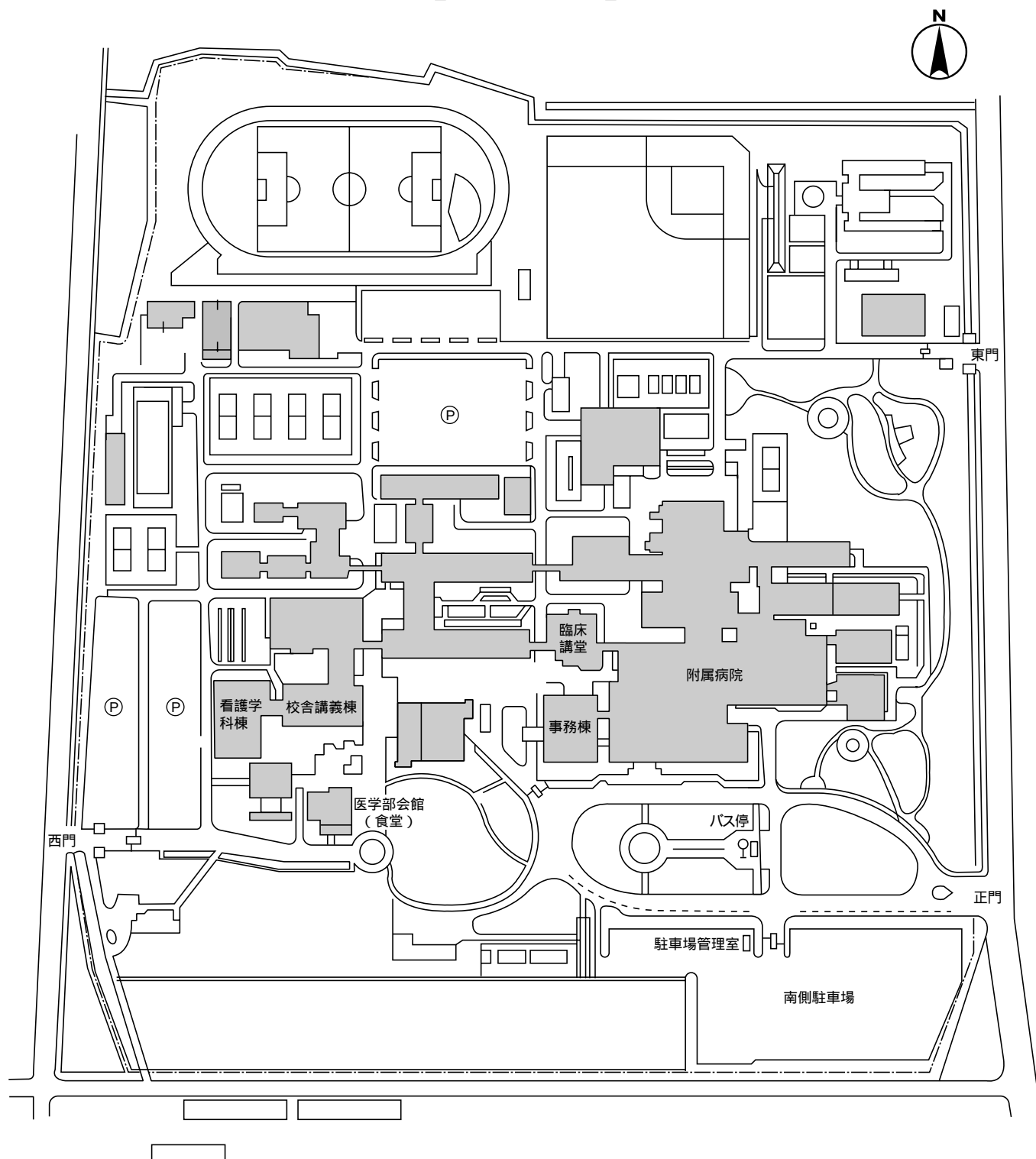
V 共通事項「佐賀大学配置図及び佐賀大学への交通案内」

佐賀大学（本庄キャンパス）配置図 〔文化教育学部，経済学部，理工学部，農学部〕

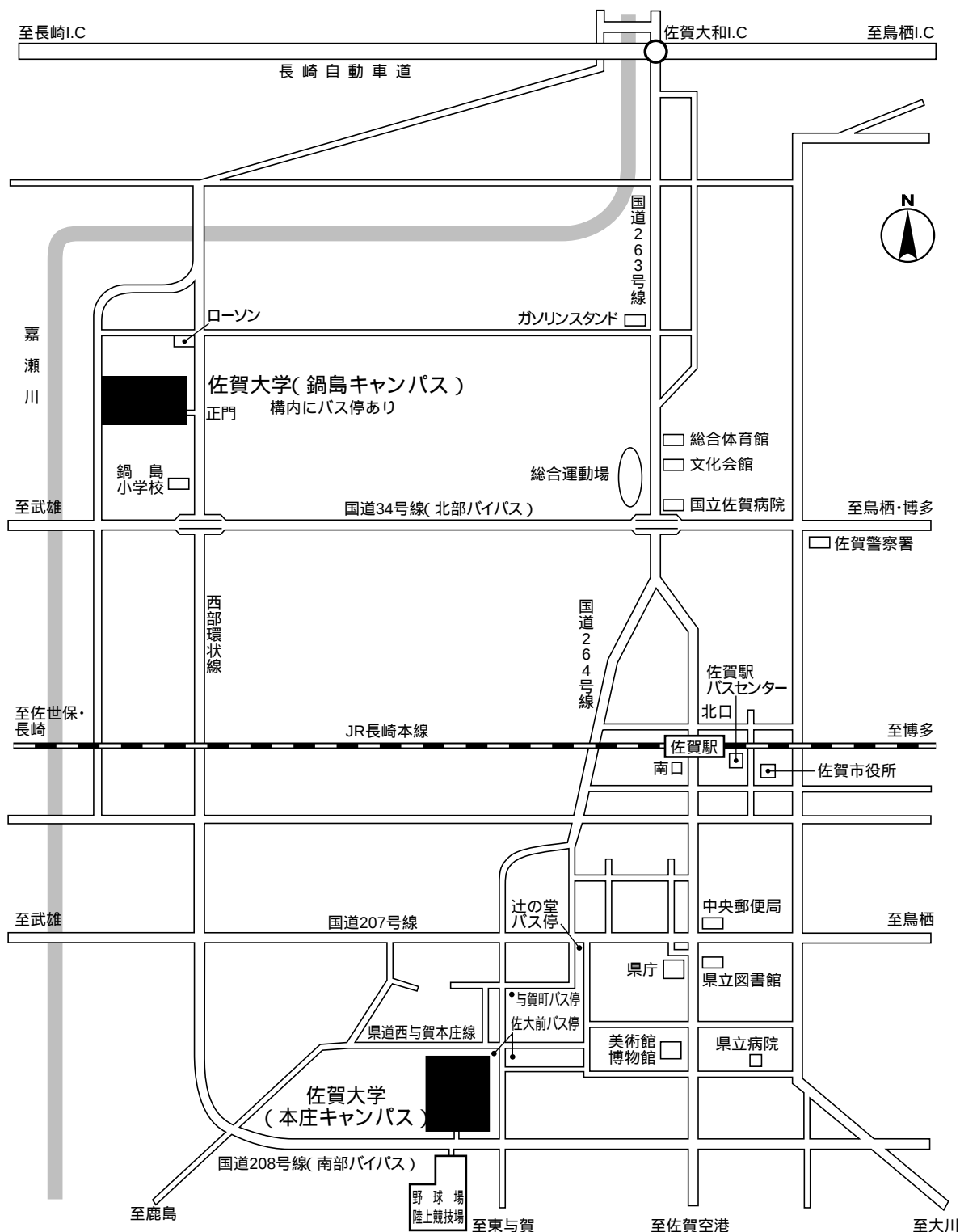


佐賀大学（鍋島キャンパス）配置図

〔医 学 部〕



佐賀市内略図



佐賀大学（本庄キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター4番のりばから市営バス相応線・11番，東与賀線・12番，佐大行・63番で約20分，「佐大前」下車
- (2) 佐賀駅からタクシーで約15分

佐賀大学（鍋島キャンパス）への交通機関案内

- (1) 佐賀駅バスセンター2番のりばから市営バス佐大医学部線（神野公園，鍋島小学校経由・50番）で約25分，終点「佐大医学部」下車
 - (2) 佐賀駅からタクシーで約15分
- 試験当日に自家用車で来た人は，正門から入り，南側駐車場に駐車してください。（佐賀大学（鍋島キャンパス）配置図参照）
また，帰りの際は，駐車場管理室に受験のため来た旨を申し出て，無料措置を受けてください。



本学の情報を携帯電話で見ることができます。
簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。

携帯用 URL:<http://daigakujc.jp/saga-u/>